

シラバス

2026年度 昼間部1年



学校法人 札幌青葉学園

✻ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	生物学・組織発生学	P4
2	生化学	P6
3	教養基礎	P8
4	栄養学	P10
5	心理学	P12
6	英語	P14
7	情報処理	P16
8	接遇作法	P18
9	解剖学	P20
10	生理学	P22
11	口腔解剖学	P24
12	歯牙解剖学	P26
13	口腔組織発生学	P28
14	口腔生理学	P30
15	薬理学・口腔薬理学	P32
16	微生物学・口腔微生物学	P34
17	病理学・口腔病理学	P36
18	衛生学・公衆衛生学	P38
19	口腔衛生学・歯科衛生統計	P40
20	歯科衛生士概論	P42
21	歯科医療倫理	P44
22	歯科臨床概論	P46
23	歯科保存学Ⅰ	P48
24	歯科補綴学Ⅰ	P50
25	歯周治療学Ⅰ	P52
26	口腔外科学Ⅰ	P54
27	矯正歯科学Ⅰ	P56

	科目名称	ページ
28	小児歯科学Ⅰ	P58
29	障害者歯科Ⅰ	P60
30	高齢者歯科Ⅰ	P62
31	う蝕予防処置法	P64
32	歯科予防処置論Ⅰ	P66
33	歯科予防処置実習Ⅰ	P68
34	歯科保健指導論Ⅰ	P70
35	歯科保健指導実習Ⅰ	P72
36	歯科診療補助論Ⅰ	P74
37	歯科放射線学	P76
38	歯科診療補助実習Ⅰ	P78
39	臨地実習・臨床実習Ⅰ	P80

教育課程 昼間部													
分野	教育内容	基準 単位数	開講 単位数	科目名称	単位数	学年別授業時間数			年間授業 時間数	備考			
						1	2	3					
基礎 分野	科学的思考の基礎	10	12	生物学・組織発生学	2	30			30				
	生化学			2	30			30					
	教養基礎			1	15			15					
	栄養学			2	30			30					
	心理学			1	15			15					
	英語			1	15			15					
	情報処理			2	30			30					
	接遇作法			1	15			15					
小計	10	12		12	180	0	0	180					
専門 基礎 分野	人体の構造と機能	15	17	解剖学	2	30			30				
	生理学			2	30			30					
	口腔解剖学			2	30			30					
	歯牙解剖学			2	30			30					
	口腔組織発生学			1	15			15					
	口腔生理学			2	30			30					
	薬理学・口腔薬理学			2	30			30					
	歯・口腔の構造と機能	7	8	微生物学・口腔微生物学	2	30			30				
	病理学・口腔病理学			2	30			30					
	衛生学・公衆衛生学			2	30			30					
	口腔衛生学・歯科衛生統計			4	60			60					
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み		衛生行政・社会福祉	2		30		30						
小計	22	25		25	345	30	0	375					
専門 分野	歯科衛生士概論	2	3	歯科衛生士概論	1	15			15				
	臨床歯科医学	8	17	歯科医療倫理	1	15			15				
				歯科臨床概論	1	30			30				
				歯科保存学Ⅰ	1	15			15				
				歯科保存学Ⅱ	1		15		15				
				歯科補綴学Ⅰ	1	15			15				
				歯科補綴学Ⅱ	1		15		15				
				歯周治療学Ⅰ	1	15			15				
				歯周治療学Ⅱ	1		15		15				
				口腔外科学Ⅰ	1	15			15				
				口腔外科学Ⅱ	1		15		15				
				矯正歯科学Ⅰ	1	15			15				
				矯正歯科学Ⅱ	1		15		15				
				小児歯科学Ⅰ	1	15			15				
				小児歯科学Ⅱ	1		15		15				
				障害者歯科Ⅰ	1	15			15				
				障害者歯科Ⅱ	1		15		15				
				高齢者歯科Ⅰ	1	15			15				
	高齢者歯科Ⅱ	1		15		15							
	歯科麻酔学・有病者歯科医療	1		15		15							
	歯科予防処置論	8	9	う蝕予防処置法	2	30			30				
				歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15				
				歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15				
				歯科予防処置実習Ⅰ	2	60			60				
				歯科予防処置実習Ⅱ	2		60		60				
				歯科予防処置実習Ⅲ	1			30	30				
	歯科保健指導論	7	9	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15				
				歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15				
				歯科保健指導実習Ⅰ	2	60			60				
				歯科保健指導実習Ⅱ	2		60		60				
				歯科保健指導実習Ⅲ	1			30	30				
摂食機能訓練法				1			15	15					
口腔筋機能訓練法				1			15	15					
歯科診療補助論	9	12	歯科診療補助論Ⅰ	1	15			15					
			歯科診療補助論Ⅱ	1		15		15					
			歯科放射線学	1	15			15					
			臨床検査法	1		15		15					
			救急蘇生法	1			15	15					
			チームケア	1			15	15					
			歯科診療補助実習Ⅰ	2	60			60					
			歯科診療補助実習Ⅱ	3		90		90					
			歯科診療補助実習Ⅲ	1			30	30					
臨地実習・臨床実習	20	25	臨地実習・臨床実習Ⅰ	1	45			45					
			臨地実習・臨床実習Ⅱ	12		540		540					
			臨地実習・臨床実習Ⅲ	12			540	540					
小計	54	75		75	495	945	690	2130					
選択 必修 分野	7単位以上を選択	7	11	医療情報処理	2		30		30				
				症例検討	1			15	15				
				医療保険事務	1			15	15				
				総合学習Ⅰ	1			15	15				
				総合学習Ⅱ	2			30	30				
				総合学習Ⅲ	2			30	30				
				総合学習Ⅳ	2			30	30				
	小計	7	11		11	0	30	135	165				
合計					93	123		123	1020	1005	825	2850	
必修科目単位数(時間数)					112	1020	975	690	2685				
選択科目単位数(時間数)					11	0	30	135	165				
選択科目のうち卒業に必要な単位数(時間数)					7	0	105		105				
※必要に応じて「特別講義」を実施する。													
単位について		講義：1単位15-30時間		基礎実習：1単位30時間		臨床・臨地実習：1単位45時間							

授 業 実 施 計 画 表(昼間部)

科目 学則で定める科目名称	区分	授業 形式	学則等規定		第1学年												
			単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
生物学・組織発生学	必修	講義	2	30													
生化学	必修	講義	2	30													
教養基礎	必修	講義	1	15													
栄養学	必修	講義	2	30													
心理学	必修	講義	1	15													
英語	必修	講義	1	15													
情報処理	必修	講義	2	30													
接遇作法	必修	講義	1	15													
解剖学	必修	講義	2	30													
生理学	必修	講義	2	30													
口腔解剖学	必修	講義	2	30													
歯牙解剖学	必修	講義	2	30													
口腔組織発生学	必修	講義	1	15													
口腔生理学	必修	講義	2	30													
薬理学・口腔薬理学	必修	講義	2	30													
微生物学・口腔微生物学	必修	講義	2	30													
病理学・口腔病理学	必修	講義	2	30													
衛生学・公衆衛生学	必修	講義	2	30													
口腔衛生学・歯科衛生統計	必修	講義	4	60													
歯科衛生士概論	必修	講義	1	15													
歯科医療倫理	必修	講義	1	15													
歯科臨床概論	必修	講義	1	30													
歯科保存学Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科補綴学Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯周治療学Ⅰ	必修	講義	1	15													
口腔外科学Ⅰ	必修	講義	1	15													
矯正歯科学Ⅰ	必修	講義	1	15													
小児歯科学Ⅰ	必修	講義	1	15													
障害者歯科Ⅰ	必修	講義	1	15													
高齢者歯科Ⅰ	必修	講義	1	15													
う蝕予防処置法	必修	講義	2	30													
歯科予防処置論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科予防処置実習Ⅰ	必修	実習	2	60													
歯科保健指導論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科保健指導実習Ⅰ	必修	実習	2	60													
歯科診療補助論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科放射線学	必修	講義	1	15													
歯科診療補助実習Ⅰ	必修	実習	2	60													
臨地実習・臨床実習Ⅰ	必修	実習	1	45													
			59	1020													

1. 生物学・組織発生学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担 当 教 員 名	飯塚 正
授 業 科 目 概 要	生物を構成する要素、特に人体の構成要素についてその発生や構造、機能について学ぶ。
目 的	医療従事者として、また歯科衛生士として必ず知っていなければならない人間の体の構造と機能を理解するために必要な生物学および組織発生学の基礎的事項を習得する。
学 習 目 標	・生物とは何かを理解する。 ・生物進化を学び生命の変遷を理解する。 ・生物構成する基本的な物質を理解する。 ・生物の基本単位である細胞の構造・機能を理解する。 ・遺伝子の構造と機能を理解する。 ・染色体、細胞分裂、遺伝とその法則を理解する。 ・受精から個体発生までの過程を知って発生について理解する。 ・体を構成する組織の構成と機能について理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・筆記試験として、中間試験（確認テスト）および期末試験（定期試験）を行う。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	・授業プリントを配布する ・歯科衛生学シリーズ「解剖学・組織発生学・生理学」の教本
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	生物の誕生と進化
2	生物を構成する物質（原子）
3	生物を構成する物質（水・無機化合物・有機化合物）
4	細胞膜の構造と機能
5	細胞小器官、細胞核の構造と機能
6	遺伝子・タンパク合成・染色体・細胞分裂
7	遺伝・生殖器
8	人体の発生（受精から出産まで）
9	上皮組織、結合組織
10	軟骨組織・骨組織
11	神経組織
12	骨格筋
13	心筋・平滑筋
14	血液
15	免疫

2. 生化学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担 当 教 員 名	西 方 真
授 業 科 目 概 要	教科書として全国歯科衛生士教育協会編集の歯科衛生学シリーズ教本である「人体の構造と機能2 栄養と代謝（医歯薬出版）」を用い、生命活動の概要、歯・口の生化学の内容について講義する。 化学の基礎から習得することによって、生体における様々な化学物質や化学反応を理解する。 さらに、より専門的に口腔の結合組織、歯の構成成分、唾液など歯・口腔の生化学について学習する。
目 的	この授業の目的は、生命現象を化学的な見地から理解させることにある。
学 習 目 標	・生化学の基礎となる原子、分子、構造式について理解する。 ・長さ、重さ、体積、濃度の単位を理解する。 ・タンパク質について構造、代謝、生理機能について理解する。 ・酵素の役割について理解する。 ・糖質について、糖質の種類、構造、代謝、生理機能について理解する。 ・脂質について、構造、代謝、生理機能について理解する。 ・口腔組織を構成する結合組織の概略を理解する。 ・歯の構成成分について理解する。 ・唾液の成分、唾液の果たす役割について理解する。 ・歯の堆積物であるプラーク、虫歯の発生について理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する。 ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う。 ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80点～89点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」 医歯薬出版
留 意 事 項	本授業の目的は、国家試験に合格するためだけではなく、歯科衛生士として身に付けるべき最低限の知識を習得することである。そのため、学習内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画

回	内 容
1	生化学の基礎： 1 物質の構造、原子の種類、大きさ、重さ
2	生化学の基礎： 2 分子、構造式、化学結合
3	生化学の基礎： 3 長さ、重さ、体積の単位
4	生化学の基礎： 4 濃度の表わし方
5	生体の構成要素： 1 タンパク質① アミノ酸、ペプチド
6	生体の構成要素： 2 タンパク質② 分解と合成
7	生体の構成要素： 3 タンパク質③ 酵素
8	生体の構成要素： 4 糖質① 単糖、二糖、多糖
9	生体の構成要素： 5 糖質② 分解、血糖値
10	生体の構成要素： 6 脂質 構造、脂肪酸の種類と性質
11	物質代謝とエネルギー、カロリー計算
12	歯・口の生化学： 1 結合組織
13	歯・口の生化学： 2 歯の構成成分
14	歯・口の生化学： 3 唾液
15	歯・口の生化学： 4 カルシウムの調節、プラーク、虫歯

3. 教養基礎 （実務教員による講義）

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	松神 美翔子
授 業 科 目 概 要	歯科医療現場では、薬品の取り扱いに関する計算や、患者指導に用いる資料の計算が必要になる。そのために基礎的な計算方法を習得する。 また、社会人として必要な国語の基本を学び、言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。
目 的	歯科医療現場で必要となる基礎的な計算方法を習得する。 幅広い年齢層に対応できるよう正しい日本語を身につけ、社会人として必要な言語表現を習得する。
学 習 目 標	1. 基本的な四則計算ができる。 2. 単位の換算ができる。 3. 比を用いた計算ができる。 4. 濃度の計算ができる。 5. 正しい文法を理解し、適切に使用することができる。 6. 自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。
成 績 評 価 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	自主教材
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	国語の基礎① 敬語・文法 I
2	国語の基礎② 文法 II
3	四則計算 小数点を含む計算・分数
4	単位の換算
5	割合と比の計算
6	濃度の計算
7	文章表現① 感想と考察
8	まとめ

4. 栄養学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担 当 教 員 名	石澤 佳菜子
授 業 科 目 概 要	栄養学の基礎知識および健康の維持・増進のために必要な栄養素について理解する。栄養上の問題点を理解し、歯科衛生士として必要な栄養指導の基礎知識を学ぶ。 また、う蝕や歯周病といった歯科疾患は、食生活ならびに生活習慣に大きく関与している。そのため、ライフステージ別の食生活の特徴を把握するとともに、望ましい食生活の実践ができるよう、基本的な考え方や理論を学ぶ。
目 的	日本人の食生活・栄養摂取状況、栄養素の消化吸収、日本人の食事摂取基準、各種栄養素の働きなどの基礎を習得する。さらに、実際の食生活に関連する望ましい食生活、国民の健康と栄養の実態、各種食品の成分と分類・物性などを学び、歯科臨床における栄養指導が、各個人のライフスタイルおよび歯科治療経過に適合して行えるよう知識を習得する。
学 習 目 標	1.食事の摂取基準について理解する。 2.エネルギー代謝について理解する。 3.栄養素の種類と働きについて理解する。 4.栄養素の体内代謝について理解する。 5.国民の健康と栄養の現状を理解する。 6.健康づくりと食品・食事・食生活について理解する。 7.ライフステージと栄養について理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～6点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能3 栄養学」（医歯薬出版） 適時資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	オリエンテーション 栄養の基礎知識、食生活と栄養 日本人の栄養摂取状況
2	栄養素の消化・吸収 ①消化作用の種類 ②栄養素の消化・吸収
3	栄養素の働き 糖質 ①糖質の種類 ②糖質のはたらき
4	栄養素の働き タンパク質 ①タンパク質の種類 ②タンパク質のはたらき
5	栄養素の働き 脂質 ①脂質の種類 ②脂質のはたらき
6	栄養素の働き ビタミン ①ビタミンの種類 ②ビタミンのはたらき
7	栄養素の働き ミネラル ①ミネラルの種類 ②ミネラルのはたらき
8	栄養素の働き 水の栄養的意味、食物繊維 ①水の働きと代謝、必要量と給源について ②食物繊維の働き、摂取量と給源について
9	食事摂取基準 ①食物に含まれるエネルギー、基礎代謝、推定エネルギー必要量について ②日本人の食事摂取基準の各指標や基本的活用方法について
10	食生活と食品 国民の健康と栄養の現状 ①食生活の変遷と疾病構造の変化 ②国民栄養の現状と課題
11	食生活と食品 望ましい食生活 ①国民の健康づくりにおける食生活改善の取り組み ②食事バランスガイドについて
12	食生活と食品 ライフステージ別の栄養と調理① ①成長期における栄養と調理の特性 ②成人期における栄養と調理の特性
13	食生活と食品 ライフステージ別の栄養と調理② 妊娠・授乳期の栄養と調理の特性
14	食生活と食品 ライフステージ別の栄養と調理③ 高齢期の栄養と調理の特性
15	食生活と食品 食べ物と健康 食品の成分と分類、食べ物の物性 まとめ

5. 心理学

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	後藤 聡
授 業 科 目 概 要	心理学の分野は多岐にわたっている。その中から、本授業では人間関係や社会との関わりについての内容を扱う。日常の人間関係や社会との関わりで生じる心理現象、カウンセリングという人間関係における話の聴き方について論じる。毎回異なったテーマを設け、理論、具体的事例、科学的根拠となる実証的研究成果などを含めて、アクティビティや発問などを取り入れながら授業を展開する。
目 的	医療スタッフや患者との対人関係を円滑にするための技法を身につける。
学 習 目 標	医療の場では人間関係が不可欠である。その対象となる人間と良好な関係を形成し、維持するためには、相手を理解することだけでは不十分である。人間関係の場面や社会から生じる自分の心理状況、話の聴き方と話し方が相手に対してどのように影響するのかを知り、必要に応じて自分を望ましい方向へ調整することも必要である。以上を考慮して本講義での目標を以下とする。 ・ 日常の人間関係や社会の中で生じる心理現象について理解する。 ・ 人間関係において自分に生じる心の状態に気づく。 ・ 医療の対象である人間の理解に役立てる。 ・ 患者との良好な関係を形成、維持するため、授業内容を役立てられるように応用的な思考を経験する。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 筆記試験 70% 提出物 30% 受講態度（私語や講義と関係ない行為を行った場合は減点することがある。） ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	自作のプリント
留 意 事 項	・ 講義内容に関する疑問がある場合は積極的に質問をすること。 ・ 私語や講義と関係のない行為を厳禁とする。

授業計画

回	内 容
1	ガイダンス 思考を柔軟にするトレーニング テーマ：同調行動と集団的無知
2	テーマ：自己呈示
3	テーマ：ステレオタイプと偏見
4	テーマ：対人認知
5	テーマ：援助行動
6	テーマ：社会的ジレンマ
7	テーマ：社会的現実
8	テーマ：カウンセリングの視点による話を聴くときの基本的態度

6. 英語

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	山中 未央
授 業 科 目 概 要	高等学校までに学習した英語力をもとにして、歯科関連の文章を読む能力、語彙への理解力、応用力及び歯科衛生士として必要な英語コミュニケーション能力を育成する。
目 的	日常的にとりかわされている基礎会話を身につける。さらに常用英語の読み、書き、聴きを習得させ、歯科臨床への応用力を育成する。
学 習 目 標	〈一般目標〉 基礎的な英会話ができるように、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識を育成する。 〈行動目標〉 【リスニング】 簡単な英会話を聞き取れるようになる。 【スピーキング】 正しい発音で英会話できる。 正しいイントネーションで英会話できる。 正しいリズムで英会話できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・講義終了後に筆記試験を行う ・講義に対する取り組み方・学習態度も評価の対象となる ・「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	自主教材
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	ガイダンス、挨拶、自己紹介
2	演習・1 基礎単語の確認 場面の説明、状況の説明
3	演習・2 過去の出来事・状況の言い方 予定の言い方
4	演習・3 情報を伝える 日常生活について
5	演習・4 会話練習
6	演習・5 プレゼンテーション
7	演習・6 プレゼンテーション
8	まとめ

7. 情報処理 (実務教員による講義)

2 単位 (必修)

第 1 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	石 王 歩
授 業 科 目 概 要	コンピュータ社会の現代では歯科衛生士であってもコンピュータ操作は必須であり、その中でも Google Docs と Google Sheets、Google Slides は使いこなしたいソフトである。 本講義ではコンピュータの基礎的知識から Google Docs、Google Sheets、Google Slides の操作までを行う。
目 的	I T 社会に対応する力を育成する。
学 習 目 標	1、Google Docs、Google Sheets、Google Slides の概要、機能を理解し、用途に応じてそれぞれのソフトを使うことができる。 2、各ソフトのウィンドウの名称、活用法を理解する。 3、ブラインドタッチで P C 操作を行うことができる。 4、文書やチラシを作成することができる。 5、データベースの作成ができる 6、数式を使用し、統計処理ができる。 7、データに適したグラフを選択し、作成することができる。 8、プレゼンテーションのためのスライドを作成することができる。
成 績 評 価 方 法	1. 実技試験 (プレゼンテーション) 2. 実技試験 (コンピュータ実演) 3. 課題の提出 (コンピュータ実演) により総合評価を行い合否判定する。 「秀」：90 点以上, 「優」：80～89 点, 「良」：70～79 点, 「可」：60～69 点, 「不可」：59 点以下以上
教 材	適宜プリント配布
留 意 事 項	常に P C 操作時の姿勢を意識し、ホームポジションを心がけること。

授業計画

回	内 容
1	コンピュータの基礎知識、インターネットについて Google Docs 演習 Google Docs で出来ること 文字の入力 ホームポジション
2	Google Docs 演習 Google Docs の機能 表現力をアップする機能
3	Google Docs 演習 文書の編集 作品の作成
4	Google Docs 演習 文書の作成
5	Google Docs 演習 作品の完成

回	内 容
6	Google Sheets 演習 Google Sheets の概要 データの入力、数式の入力
7	Google Sheets 演習 表の作成 関数の入力
8	Google Sheets 演習 グラフの作成 データの並べ替え
9	Google Slides 演習 基礎知識、画面構成 プレゼンテーションの作成演習 イラストや画像を挿入する 画面切り替え効果、アニメーション効果の設定
1 0	Google Slides 演習 プレゼンテーションの作成
1 1	Google Slides 演習 プレゼンテーションの作成
1 2	Google Slides 演習 プレゼンテーションの完成
1 3	実技試験 Google Slides を使ったプレゼンテーション
1 4	実技試験 Google Slides を使ったプレゼンテーション
1 5	まとめ

8. 接遇作法

1 単位（必修）

第 1 学年（15 時間）

担 当 教 員 名	田中 みどり
授 業 科 目 概 要	礼儀を押さえる事が、いかに重要か理解を深め、自己トレーニング法を導入し授業後も自分磨きができるよう個人指導強化の授業。 好印象を与える要素を理解し、実践で表現できるように指導。 「ケアコミュニケーション」のスキルアップをはかる。
目 的	接遇 イコール ケアである事を理解し、患者様に対してだけでなく人とのコミュニケーションを大切にできる学生を育成する。 社会人としての心得を押さえ、自信をもって社会に羽ばたける学生を育てる。
学 習 目 標	接遇を頭の理解にとどまらず、具体的に表現するテクニックを体得する
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	特になし（プリント配布）
留 意 事 項	必ず実技を伴うこと。

授業計画

回	内 容
1	医療従事者としての接遇とは 第一印象の重要性（セルフチェック） 患者様への好感度の高い接し方
2	好印象で信頼を得るには 声の演出（呼吸法・発声法・他） 感情移入
3	言葉遣い 敬語・表現法 心に響く話し方 報告・連絡・相談
4	立ち居振る舞い
5	来客対応 患者様優先の心づかい 誘導・戸の開閉・物授受・名刺取扱・上座・お茶コーヒーの出し方 他
6	電話対応基本 電話対応応用
7	クレーム対応 ケアコミュニケーション
8	ユニバーサル 試験対策

9. 解剖学

2単位（必修）

第1学年 （32時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光
授 業 科 目 概 要	教科書として全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本である「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）」を用い、解剖学の内容について講義する。 具体的には、解剖学総論、骨格系、筋系、脈管系、内臓学、神経・感覚器、内分泌の順に系統別に分けて講義する
目 的	この授業の目的は、歯科医学の初学生である1年次学生に、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎となる人体の正常な形態と構造に関する基本的な知識を身につけさせることにある。
学 習 目 標	人体の正常な形態について学び、歯科衛生士として必要な解剖学の基礎知識を習得する。 ・人体の区分、方向用語等を理解する。 ・運動器系の基本構造を理解する。 ・消化器系の基本構造を理解する。 ・呼吸器系の基本構造を理解する。 ・循環器系の基本構造を理解する。 ・神経系の基本構造を理解する。 ・感覚器系の基本構造を理解する。 ・泌尿生殖器系の基本構造を理解する。 ・内分泌系の基本構造とホルモンについて理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版 授業開始時に適宜プリント配布 【参考書】 藤田恒夫 「入門人体解剖学」 南江堂 （学内図書）
留 意 事 項	解剖学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。 また、少なくともその週のうちに復習する習慣をつけること。

授業計画

回	内 容
1	解剖学総論・方向用語・骨格
2	人体を構成する骨
3	骨格筋
4	消化器Ⅰ 総論・口腔・咽頭・食道
5	消化器Ⅱ 胃・腸管・肝臓・膵臓
6	循環器Ⅰ 総論・心臓
7	循環器Ⅱ 動脈・静脈・リンパ管
8	呼吸器
9	中枢神経Ⅰ 中枢神経系総論・大脳
10	中枢神経Ⅱ 脳幹・脊髄 末梢神経Ⅰ 脊髄神経
11	末梢神経Ⅱ 脳神経
12	末梢神経Ⅲ 自律神経 感覚器Ⅰ 皮膚
13	感覚器Ⅱ 視覚器
14	感覚器Ⅲ 平衡聴覚器泌尿器
15	泌尿器
16	内分泌（ホルモン）

担 当 教 員 名	船橋 誠
授 業 科 目 概 要	生体の生命維持のための機能と生体の思考・運動機能などを解明する学問です。その機能とは、細胞、組織、臓器において、化学反応、呼吸、血液、神経、ホルモンなどが関与し、食物の消化・吸収、栄養供給、排泄、生殖、感覚などの機能を生じ、また、運動、記憶、思考、睡眠などの機能をもたらす。この生体を維持する一連の機構を学びます。
目 的	臨床歯科医学を学ぶにあたり必要な生理学の知識を修得することを目的とします。
学 習 目 標	【一般目標】 生命現象を理解するために、生体構成成分である細胞・組織・臓器の機能維持・恒常性維持のための機構の成り立ちを理解する。 【到達目標】 生体の構成成分を説明できる。 細胞の基本的機能、特に細胞膜の役割、細胞分裂、遺伝子情報、エネルギー代謝などを説明できる。 血液の構成成分は何か、その細胞の役割を説明できる。 出血傾向(出血性素因)とは何か、血液型と輸血について説明できる。 呼吸器の仕組みを理解する。換気の仕組み、肺胞でのガス交換、呼吸調節を理解する。 肺活量とは何か説明できる。 筋肉の種類と機能を説明できる。骨格筋の収縮様式を説明できる。 筋の微細構造と筋収縮の仕組みを理解する。心筋の収縮の特徴を説明できる。 神経系の構造と機能の単位(ニューロン、シナプス、神経繊維)を説明できる。 興奮伝達の機序を理解できる。 脊髄神経、脳神経、自律神経の機能を説明できる。 中枢神経系の機能(反射中枢、統合作用)を理解できる。 感覚性伝導路、運動性伝導路を説明できる。 延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳の機能の代表的なものを説明できる。 脳波を理解できる。 感覚の分類を理解できる。視覚、聴覚、臭覚、平衡感覚、体性・内臓感覚の仕組みを理解できる。 消化、吸収とは何か、また、消化管の名称を説明出来る。胃、小腸、大腸の主な働きを説明できる。 消化液の代表的な消化酵素を説明できる。 排泄とは何か説明出来る。発汗の意味について理解する。排尿の仕組みについて理解する。 体温の調節の仕組みを理解できる。 内分泌とは何か説明できる。内分泌器官とホルモンとその作用について代表的ものを説明できる。 受精、妊娠、乳汁分泌の仕組みを理解できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 （医歯薬出版） 配布資料
留 意 事 項	5コマの講義が終わるたびに中間試験を行う（計3回）。講義時間外に実施するので日程については別途指示する。

授業計画

回	内 容
1	生命現象とは何か～生理学を学ぶ意義：ホメオスタシス(生体の恒常性)とは何か 細胞の基本的構造とその機能
2	血液と体液：血液と体液の成分とその機能、止血と血液凝固、出血と出血傾向(出血性素因)、血液型と輸血
3	循環：心臓の構造と機能、心臓の自動能
4	循環：心電図、血圧、血管の機能、リンパ循環、ショック
5	呼吸：呼吸とは何か、呼吸器の構成、呼吸運動、換気の仕組み、肺気量と換気量と肺活量、肺でのガス交換、血液中の酸素の運搬、呼吸の調節機構
6	神経：神経系の分布と概要、神経系の基本的機能、神経の興奮性
7	神経：中枢神経系、体性神経、自律神経
8	神経：脳と行動
9	筋肉：筋肉の種類と機能、骨格筋の収縮様式、筋収縮の仕組み、筋電図、心筋、平滑筋の特徴
10	感覚：感覚の基本的性質、特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）
11	消化と吸収：消化と吸収の意味、胃・小腸・大腸の働き
12	排泄：排便、排尿（腎機能）、発汗
13	体温：体熱の生産、体熱の放散、体温の調節、体温の変動
14	内分泌：内分泌器官とホルモン、視床下部-下垂体系、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、腎、生殖器
15	内分泌：甲状腺と上皮小体、副腎、膵臓、腎 生殖：性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌

11. 口腔解剖学

2 単位（必修）

第 1 学年 （30 時間）

担 当 教 員 名	森 幸徳
授 業 科 目 概 要	人体の解剖学のうち、頭頸部の解剖学的知識を習得する。
目 的	口腔および口腔周辺の正常な形態、構造を知ることにより、口腔および口腔周辺の機能を知ることが目的とする。
学 習 目 標	頭頸部を形成する骨格と筋系、脈管神経系などの機能、相互の位置関係を理解する。 歯科临床上、直接かかわることの多い口腔内組織の正常な形態、名称を理解する。 上記知識の習得が口腔の生理機能を理解する上での基盤であり、臨床の第一歩であることを理解する。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，小テスト，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 配布資料
留 意 事 項	頭頸部の解剖は複雑であり、講義のみでの完全理解は困難であるため、講義中に理解できなかった箇所は、自学にて復習しその理解に努めること。

授業計画

回	内 容
1	頭蓋骨① 頭蓋骨名称、泉門、副鼻腔
2	頭蓋骨② 頭蓋骨部位名称
3	頭蓋骨③ 上顎骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨
4	まとめ①、口腔周囲の筋肉① 頭蓋骨まとめ、舌骨上筋
5	口腔周囲の筋肉② 咀嚼筋
6	口腔周囲の筋肉③、口腔周囲の動脈① 表情筋、舌筋、血液循環の基本、口腔周囲の動脈
7	口腔周囲の動脈② 舌動脈、顔面動脈、顎動脈
8	まとめ②、口腔周囲の静脈・リンパ系① 動脈まとめ、口腔周囲の静脈・リンパ系
9	脳神経① 神経系の基本、脳神経、三叉神経の基本
10	脳神経② 三叉神経（眼神経、上顎神経、下顎神経）
11	脳神経③ 顔面神経、舌咽神経、舌下神経、自律神経
12	まとめ③・④・⑤ 筋肉・脳神経・動脈まとめ
13	口腔組織① 口腔外面、口腔内、歯周組織
14	口腔組織② 舌、口蓋、軟口蓋筋、咽頭
15	口腔組織③ 顎関節、唾液腺

12. 歯牙解剖学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担当教員名	藤井 誠
授業科目概要	歯の基本的構造、永久歯および乳歯の形態的特徴、歯の配列と咬合、異常歯などについて学ぶ。 また、実習では、歯のスケッチと歯型彫刻を行って、歯の立体的な形態に対する理解を深める。
目的	歯の基本的形態とそれぞれの特徴について理解し、歯科衛生士として臨床において必要となる歯牙の形態学的知識を修得する。
学習目標	正常な歯の配列と咬合がわかる。 特定の歯の立体的な形態をイメージでき、歯の鑑別ができる。 異常歯の種類を説明できる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 各種プリント 【参考書】 歯の解剖学（金原出版）
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	歯の概論 歯式、歯の用語、形態に関する名称、歯の特徴
2	永久歯：中切歯、側切歯、犬歯
3	永久歯：第一小臼歯、第二小臼歯
4	永久歯：上顎第一大臼歯、第二大臼歯
5	永久歯：下顎第一大臼歯、第二大臼歯
6	乳歯：乳切歯、乳犬歯
7	乳歯：第一乳臼歯、第二乳臼歯
8	歯の配列と咬合、異常歯
9	実習：歯のスケッチ：上顎第一大臼歯
10	実習：歯型彫刻（1）上顎第一大臼歯
11	実習：歯型彫刻（2）上顎第一大臼歯
12	実習：歯のスケッチ：下顎第一大臼歯
13	実習：歯型彫刻（3）下顎第一大臼歯
14	実習：歯型彫刻（4）下顎第一大臼歯
15	まとめ

13. 口腔組織発生学

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光
授 業 科 目 概 要	教科書として全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本である「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）」を用い、口腔組織発生学の内容について講義する。 具体的には、顔面と口腔の発生、歯の発生、歯の組織、歯周組織、顎関節について講義する。
目 的	この授業の目的は、歯科医学の初学生である 1 年次学生に、専門分野を学ぶ上で必須の顎口腔領域の発生と組織に関する基本的な知識を身につけさせることにある。
学 習 目 標	顎顔面と口腔の発生、歯および歯周組織について、歯科衛生士として必要な知識を習得する。 ・顔面および口腔の発生について理解する。 ・歯の発生について理解する。 ・歯の組織（エナメル質・象牙質・歯髄・セメント質）について理解する ・歯周組織（歯根膜・歯肉・歯槽骨）について理解する。 ・顎関節について理解する。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学教本 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版 授業開始時に適宜プリント配布
留 意 事 項	口腔組織発生学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画

回	内 容
1	総論
2	顔面と口腔の発生
3	歯と歯周組織の発生 I
4	歯と歯周組織の発生 II
5	エナメル質
6	象牙質・歯髄
7	セメント質・歯根膜・歯槽骨
8	歯肉・口腔粘膜・顎関節

14. 口腔生理学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担 当 教 員 名	舩橋 誠
授 業 科 目 概 要	口腔は、消化器官、呼吸器官、発語器官、感覚器官として機能し、歯、唾液、咀嚼、味覚などの特異的な機能が存在しています。これら器官として機能をする機構を明らかにする学問です。
目 的	口腔、顎、顔面などの諸器官の機能を健全に維持するために、また、これらの諸器官の機能障害を予防・治療する上で基礎となる知識を習得する。
学 習 目 標	【一般目標】 口腔を構成している組織や諸器官の役割を理解し、その機能を健全に維持するための機構についての生理学的な知識を習得する。 【到達目標】 口腔生理学とは何か、を理解する。 歯と口腔の感覚：咬合に重要な役割をする歯と歯を支持する歯周組織の機能的構造を説明できる。 歯、歯髄、歯周組織の感覚機能を説明できる。 口腔粘膜の感覚を理解できる。口腔内の感覚点の特徴を説明できる。 味覚：味覚の神経機構の概要を理解できる。 味覚のはたらきと分布を説明できる。味覚の五基本味、味覚閾値を説明できる。 嗅覚：嗅覚の役割・特性について説明できる。 咬合：下顎位について説明できる。 下顎の運動の特徴について説明できる。 下顎の運動に関与する筋（咀嚼筋）について説明できる。 咀嚼筋の特性を説明できる。 下顎運動と顎関節内の動きを説明できる。 顎反射：顎反射の機序を説明できる。顎運動調節への役割を説明できる。 摂食：摂食行動を説明できる。 咀嚼：咀嚼時の神経性抑制機構を理解できる。 咀嚼時の下顎の動き・食物の動きを説明できる。 咀嚼能率について説明できる。 吸啜：吸啜・吸指癖について説明できる。 嚥下：嚥下と嘔吐にかかわる解剖学的構造を説明できる。 摂食・嚥下の流れについて説明できる。 嘔吐：嘔吐の機序、嘔吐の神経機構を説明できる。 発声：発声機構の概要を理解できる。声の生成機序を理解できる。 言語音の形成と構音障害を説明できる。歯・口腔の病態と発音について説明できる。 唾液：唾液腺の解剖学的概要を説明できる。唾液の分泌機構を理解できる。 唾液の分泌量、性状・成分と機能について説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
留 意 事 項	5コマの講義が終わるたびに中間試験を行う（計3回）。講義時間外に実施するので日程については別途指示する。

授業計画

回	内 容
1	口腔生理学とは何か。口腔の役割、口腔の構造と機能の概要。
2	歯と口腔の感覚
3	味覚と嗅覚 1
4	味覚と嗅覚 2
5	味覚と嗅覚 3
6	咬合と咀嚼・吸啜 1：下顎位
7	咬合と咀嚼・吸啜 2：下顎の運動
8	咬合と咀嚼・吸啜 3：顎反射
9	咬合と咀嚼・吸啜 4：咀嚼運動、神経性制御、咀嚼能力
10	咬合と咀嚼・吸啜 5：摂食行動、吸啜反射
11	嚥下と嘔吐 1 嚥下と嘔吐に関わる構造、嚥下の機能、嚥下中枢
12	嚥下と嘔吐 2 嘔吐の機能、嘔吐中枢
13	発声 発声機構の概略、咽頭の機構、音声の生成、言語音の形成、歯・口腔と発音
14	唾液 1：唾液腺の構造、唾液の分泌機構、唾液の性状と成分
15	唾液 2：唾液の働き、唾液と疾患

担 当 教 員 名	鈴木 邦明
授 業 科 目 概 要	薬理学は、化学物質である薬物と生体の細胞・組織との相互作用によって生じる現象を研究する科学である。具体的には、薬物の性状、薬物が作用する部位、薬物の作用機構、薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）、中毒、医療上の応用、医療に適する製剤などについて学ぶ。 薬理学は基礎医学の一分野であるが、臨床との接点であり、薬物の臨床医学分野における応用上の指針を示す。薬理学は、対象となる臓器別に細分化されることもあり、歯科薬理学は歯内治療、歯周疾患、口腔粘膜疾患、硬組織（歯や骨）を対象とする薬理学である。
目 的	歯科衛生士は歯科臨床の場において多くの薬物に関わる。薬理学・歯科薬理学では、薬物から最大の効果を引き出し、使用するための知識を身に付ける。また、薬物は、誤った使用法により、患者に対してだけでなく、使用する医療関係者に有害な作用を引き起こす危険性もある。自分の身を守るためにも、正しい薬物の取り扱いを理解する必要がある。近年は、高齢化に伴って、循環器疾患や糖尿病などの基礎疾患をもち、多くの薬物を投与されている患者が歯科を受診する機会も多い。歯科以外の治療で使われている薬に関する知識も必要であり、薬物全般に関して学ぶ。これらの知識は、服薬指導を行う上での基礎としても大切である。
学 習 目 標	1. 歯科衛生士としての日常業務に必要な薬理学的な知識を身に付け、説明することができる。 2. 身近にある薬物に関心を持ち、新たな情報を得て知識を深める基盤を築き、理解することができる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する 以上により総合評価をして可否を判定する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【プリント】 講義のガイドとして、教科書の重要事項を抜粋した講義資料を配付する。 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版（医歯薬出版） 【参考書】 現代歯科薬理学第6版（医歯薬出版）
留 意 事 項	薬理学を理解するには、高校までに学んだ生物学や化学、さらには生化学、生理学および解剖学などの基本的な知識を必要とするので、これらの科目の理解に努めていただきたい。 講義資料としてプリントを配付するので、教科書と合わせて事前に読んでから講義を受けることが望ましい。 毎回の講義の最後に、講義内容に関する小テストを行い平常点の評価に使用する。次回の講義の最初に、小テストの解答と解説を行うので、振り返りと知識の定着に活用していただきたい。

授業計画

回	内 容
1	薬物の作用：薬物療法の種類、薬理作用の様式、基本形式、分類、用量反応関係と薬用量の用語、薬理作用の機序
2	薬物動態：生体膜通過様式、吸収、分布、代謝、排泄、生物学的半減期
3	薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える要因：薬物の適用方法の種類、血中濃度の推移、生物学的利用能、薬効に影響する因子、薬物の連用、併用、相互作用
4	薬物の副作用、有害作用、医薬品を適用する際の注意：薬物の有害作用の分類と原因、一般的副作用、歯科領域における副作用、副作用・有害作用の予知と回避
5	薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品：医薬品の剤形、処方せん、配合変化、薬物の保存方法、医薬品医療機器法、日本薬局方、毒薬・劇薬の表示と保管、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法
6	ビタミンとホルモン、末梢神経系に作用する薬物（1）：ビタミン、ホルモン、アドレナリン受容体、アセチルコリン受容体、交感神経と副交感神経の働きと神経伝達物質、交感神経作動薬と遮断薬
7	末梢神経系に作用する薬物（2）、中枢神経系に作用する薬物（1）：副交感神経作動薬と遮断薬、全身麻酔薬、アルコール類、催眠薬・抗不安薬、抗てんかん薬
8	中枢神経系に作用する薬物（2）、循環器系に作用する薬物：向精神薬、中枢神経興奮薬、パーキンソン病治療薬、アルツハイマー病治療薬、高血圧治療薬、不整脈治療薬、心不全治療薬、狭心症治療薬、脂質異常症治療薬
9	腎臓に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物、血液に作用する薬物：腎臓の機能と構造、主な利尿薬と作用機序、気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、消化性潰瘍治療薬、鎮痙薬、止血機構、止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬
10	免疫と薬、悪性腫瘍と薬、代謝性疾患治療薬、炎症と薬（1）：免疫増強薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、悪性腫瘍とは、抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬、アラキドン酸カスケード、炎症のケミカルメディエーター
11	炎症と薬（2）、痛みと薬、局所麻酔薬（1）：ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬、痛覚の発生と伝導、オピオイド系鎮痛薬、非オピオイド系鎮痛薬、局所麻酔薬の作用機構、血管収縮薬の併用
12	局所麻酔薬（2）、抗感染症薬（1）：局所麻酔薬の分類と化学構造、適用法、感染症と抗感染症薬、抗感染症薬の作用機序と副作用、β-ラクタム系抗菌薬
13	抗感染症薬（2）、消毒に使用する薬（1）：マクロライド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬、ニューキノロン系抗菌薬、消毒薬の作用機序、消毒薬の分類、酸化剤、ハロゲン化合物、アルコール類、アルデヒド類
14	消毒に使用する薬（2）、う蝕予防薬、歯内療法薬（1）：フェノール類、界面活性剤、HBV および HIV に対する消毒薬、フッ化物の臨床応用、歯髄の保存に用いる薬物、根管治療に用いる薬物
15	歯内療法薬（2）、歯周疾患治療薬、顎・口腔粘膜疾患と薬、漢方医学と薬物：象牙質知覚過敏症に用いる薬物、歯周疾患治療薬、洗口薬、口臭治療に用いる薬物、炎症性疾患、口腔粘膜疾患、顎関節症、口腔乾燥症、神経疾患に用いる薬物、漢方医学とは、漢方薬とは

16. 微生物学・口腔微生物学

2 単位（必修）

第 1 学年 （30 時間）

担 当 教 員 名	柴田 健一郎
授 業 科 目 概 要	微生物の種類と構造ならびに感染様式、ならびに生体がどの様にこれらの微生物を認識、排除しているかという生体防御機構に関する知識を学ぶ。また、これらの知識を基に、歯科医療現場での種々の微生物感染防御に必要な滅菌法、消毒法、ならびに化学療法を学ぶ。更に、口腔感染症の大部分は歯垢中の常在菌による感染症であるという特殊性を理解した上で口腔感染症の発症機構ならびに予防法に関する知識を学ぶ。
目 的	微生物の種類と構造ならびに感染様式、ならびにこれらの微生物に対する生体防御機構について正しく理解し、さらに、歯垢中の常在菌による感染症であるという口腔感染症の特殊性を理解し、正常な口腔のみならず様々な口腔疾患を有する傷病者に対する診療介助や予防指導および口腔介護を安全に実施できるように役立てること。
学 習 目 標	ヒトに感染する微生物の種類、構造と感染様式、それらの病原微生物に対する生体防御機構、さらに、滅菌・消毒ならびに化学療法を理解し、感染予防対策を立案できる能力を養うために以下の項目を重点に理解する。 1. 微生物の概要と感染の様式 2. 細菌、ウイルス、真菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの性質とそれらの感染症 3. 微生物の培養ならびに観察方法 4. 化学療法ならびに滅菌消毒法 5. 口腔環境の特殊性 6. う蝕ならびに歯周病の細菌学 7. 主な病原菌とその感染症 8. 歯科に関連するウイルスとそれらの感染症 9. 生体防御機構 10. アレルギー
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・講義ごとの確認テスト、中間試験ならびに期末試験を行い、最終的にそれぞれ 10%, 45%ならびに 45%として評価し、可以上を合格とする。 ・「秀」: 90 点以上, 「優」: 80 点以上, 「良」: 70～79 点, 「可」: 60～69 点, 「不可」: 59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 第 2 版」(医歯薬出版)
留 意 事 項	予習・復習ができれば望ましいが、一番肝心なことは講義中に居眠りをしないこと！

授業計画：講義

回	内 容
1	細菌、ウイルスならびに真菌の概要（医学映像教育センターの DVD を使用） 微生物学発展の歴史
2	感染様式と感染症 細菌の分類と性状
3	細菌の増殖様式と病原性 主な病原性細菌（グラム陽性球・桿菌）
4	主な病原性細菌（グラム陰性球・桿菌） マイコプラズマ、スピロヘータ、リケッチア、クラミジアの一般的性状
5	ウイルスの性状と複製様式 歯科関連ウイルスの性状と感染症
6	真菌・原虫の性状 細菌、ウイルスならびに真菌の概要（医学映像教育センターの DVD を使用）
7	特異的ならびに非特異的防御機構の概要（アニメーションを併用）
8	非特異的防御機構（物理的、化学的、生物学的バリアーと自然免疫）
9	特異的防御機構（抗原提示、T 細胞、B 細胞、抗体等） 液性免疫（抗体の種類と機能）と細胞性免疫（移植免疫、腫瘍免疫、細胞内寄生微生物による感染防御免疫）
10	アレルギー種類と発症機序 口腔細菌叢成り立ち、デンタルプラークの形成機序
11	う蝕の病因論（ミュータンス連鎖球菌のう蝕原性等）
12	歯周病の病因論（歯周病原性細菌とその歯周病原性等）
13	その他の口腔感染症（ウイルスならびに細菌感染症、誤嚥性肺炎等）
14	主な化学療法薬の種類と特徴
15	院内感染対策と滅菌・消毒 細菌の培養、顕微鏡の種類と機能

担 当 教 員 名	進藤 正信
授 業 科 目 概 要	病理学は疾患の病態を解明する学問です。病態とは、疾患の原因、経過、転帰であり、その解明手法は機能的および形態学的検索に基礎をおいていますが、分子生物学的方法（遺伝子など）も取り入れられ、多岐に及んでいます。授業において、病理学総論では、代謝障害、病変の修復、遺伝子異常、循環障害、炎症、腫瘍などと分類された疾患の概要を学びます。口腔病理学では、口腔に特異的な疾患の病態および全身疾患が口腔領域へ発現する際の病態の概念を学びます。
目 的	主な疾患の発生・経過・予後について学び、さらに歯科衛生士として必要な口腔に特異的な疾患および全身疾患が口腔領域へ発現する際の病態の概要を理解する。さらに医療行為（処置）による病変の治癒経過ならびに副作用について概要を理解する。
学 習 目 標	【一般概要】 ・ものの見方と考え方および見方の心理を理解し、ヒトの病変への対応に反映させる。 ・機能の変化は形態の変化に現れ、形態の変化は機能の変化をもたらすことを理解する。 【病理学総論】 ・細胞と組織の形態学的変化、機能的変化を理解する。 ・病気の原因について、内因と外因の代表的なものについては概要を説明できる。 ・遺伝、染色体、遺伝子、DNA、RNA の概要を説明できる。代表的な遺伝性疾患を理解する。 ・代謝疾患を理解し、その代表的な疾患について説明できる。 ・細胞や組織が傷害を受けた時の変化とその治癒過程を説明出来る。 ・循環障害を理解し、その代表的疾患について説明できる。 ・炎症を理解し、関与する細胞やその代表的疾患について説明できる。 ・免疫とは何か、アレルギーや代表的免疫疾患について説明できる。 ・奇形とは何か、原因を理解する。 ・腫瘍とは何か、原因、発生過程、悪性腫瘍（がん）と良性腫瘍の相違を理解する。代表的な腫瘍について説明できる。 【口腔病理学】 ・口腔粘膜創、抜歯創の治癒過程を説明できる。 ・口腔粘膜病変の代表的な疾患の概要を説明できる。 ・口腔領域の嚢胞と腫瘍の分類を理解し、代表的な嚢胞と腫瘍の概要および成り立ちを説明できる。 ・顎骨の病変、唾液腺の病変を理解し、代表的な病変を説明できる。 ・口腔領域の奇形の成り立ちを理解できる。 ・口腔組織の加齢変化を説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学 プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	総論 1 章 病理学序論と病因論 ：病理学とは、病態とは、病理学の歴史、医学の中の病理学の位置づけ、死とは、 ：形態と機能の関連、形態・色調の見方・考え方、視覚（色・形）の心理学、 ：病因論（病気の原因、内因、外因）
2	総論 2 章 遺伝性疾患と奇形 ：遺伝とは、ヒトの染色体とは、：遺伝性疾患、全身の奇形、顎口腔領域の奇形
3	総論 3 章 循環障害 1 ：循環系の概要：循環異常（充血とうっ血、出血と止血、血液凝固と血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫、ショック、DIC）
4	総論 3 章 循環障害 2 ：循環系の異常と疾患（高血圧、動脈硬化、心疾患、脳血管障害）
5	総論 4 章 代謝障害と退行性病変 ：細胞障害（変性・萎縮、壊死、アポトーシス）
6	総論 4 章 代謝障害と退行性病変 ：代謝異常（脂質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患）
7	総論 5 章 増殖と修復 ：細胞の適応（肥大、増生、化生）：再生と修復（異物処理、肉芽組織、創傷治癒）
8	総論 6 章 炎症と免疫応答異常 ：炎症（炎症の役割、炎症に関与する細胞、炎症の経過と種類）：感染症（細菌感染症、ウイルス感染症）
9	総論 6 章 炎症と免疫応答異常 ：免疫（免疫応答、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全）：移植と再生医療
10	総論 7 章 腫瘍 1 ：腫瘍の疫学、腫瘍と遺伝子異常、腫瘍の種類と性質、
11	総論 7 章 腫瘍 2 ：日本における悪性腫瘍、腫瘍を誘発する環境因子、腫瘍の治療
12	各論 7 章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 ：炎症性嚢胞と発育性嚢胞、歯源性嚢胞と非歯源性嚢胞：歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍 各論 8 章 口腔癌 ：口腔癌の疫学、口腔前癌病変、口腔扁平上皮癌
13	各論 9 章 顎骨の病変、 ：顎骨の炎症性病変、骨粗鬆症、顎骨の腫瘍様病変、顎関節症
14	各論 6 章 口腔粘膜の病変 ：退行性病変、化学的・物理的障害、原因不明粘膜疾患、感染性疾患、皮膚科的疾患
15	各論 10 章 唾液腺の病変 ：唾液腺の構造と機能、唾液腺の退行性病変、唾液腺炎、シェーグレン症候群、唾液腺腫瘍

18. 衛生学・公衆衛生学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担 当 教 員 名	山本 貴文
授 業 科 目 概 要	人の健康と疾病予防の概念について学ぶ。 人の健康問題とそれに関わる環境について学ぶ。 疫学的手法を学び、健康課題を把握するとともに疾病・異常の予防対策について学ぶ。 地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや方法について学ぶ。
目 的	衛生学・公衆衛生学の考え方を理解し、健康に関わる課題や問題解決のための方法・対策等を学ぶことによって、個人・家族及び地域の人々の健康づくりに資することを目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 ・自分と家族の健康を守る能力の向上をはかるとともに、医療人として、地域の人々の健康を守る人（職種）であるという意識の向上をはかる。 ・健康づくりの視点から、健康問題とそれに関わる要因について理解を深め、健康増進や疾病の原因と予防の必要性について理解するとともに、問題解決に必要な判断力と行動力を養う。 ・地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、法体系を理解し、現状の方法を習得する。 【到達目標】 ・広い視野を持って、健康にかかわる社会の出来事に関心を持つ。 ・健康や病気には多くの要因が関わることを知り、その知識と理解を深める。 ・日常の生活習慣や予防の視点から、自分の健康に留意し、自己管理することができる。 ・地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を習得する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学」 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」 （医歯薬出版）
留 意 事 項	・授業のテーマは広範囲にわたっています。教科書のみではなく、日々のニュースや書籍などを読み見識を深めることで授業の理解がさらに深まります。 ・授業に集中できるよう、毎日の食事、睡眠などに留意し、良い生活習慣を身に付ける。 ・常に歯科衛生士国家試験を意識して学習すること。

授業計画

回	内 容
1	総論 歯科衛生士とは、健康の概念、予防医学の概念
2	疫学 疫学の歴史、疫学の定義・概要、疫学の方法
3	人口 人口の動向、人口動態統計、生命表
4	健康と環境 1 健康の概念、空気・水と健康、放射線と健康
5	健康と環境 2 生活環境（住居・衣服）、地球環境の変化、公害・廃棄物処理
6	感染症 感染症の概念、感染症の予防、主な感染症
7	食品と健康 五大栄養素、日本人の食事摂取基準、食生活指針、食育、国民栄養の現状と問題点、食中毒
8	地域保健・公衆衛生 1 地域保健の概念（新しい概念）、地域保健の組織
9	地域保健・公衆衛生 2 地域保健活動の進め方、健康づくり対策と地域歯科保健
10	母子保健 母子保健の目的・概要、母子保健・小児保健、妊産婦・乳幼児の歯・口腔
11	学校保健 学校保健の意義および概要、学校保健の活動と組織、学校歯科保健
12	成人保健、産業保健 成人保健の意義と現状、成人保健対策、成人歯科保健、産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理・活動、産業歯科保健産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理・活動、産業歯科保健
13	老人（高齢者）保健 老人（高齢者）保健の意義、老人（高齢者）保健のための組織と法律、死因の変遷、サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム
14	精神保健 各ライフステージにおける精神保健・医療・福祉
15	災害時の歯科保健・国際保健 大規模災害時の保健、被災地での歯科保健活動、国際協力の仕組み・機関、口腔保健戦略と目標

担 当 教 員 名	北川 純一
授 業 科 目 概 要	口腔衛生学は、歯科医学においては基礎に位置づけられる科目であるが、様々な予防処置や保健指導などの臨床的な内容、公衆歯科衛生や地域歯科保健活動などの社会歯科学的内容も多い。歯や口腔の正常な状態、機能に加えて、う蝕や歯周病、その他の口腔疾患の原因と予防法を学ぶことで、国民の口腔の健康増進を図ることを目的とする。
目 的	歯科予防処置および歯科保健指導の基礎となる口腔衛生学を学ぶことにより、実践に役立てる。
学 習 目 標	【一般目標】 口腔衛生学の内容を確実に理解し、臨床現場のみならず広く社会で実践することは歯科衛生士の基本的任務である。そのため、口腔衛生学を講義や実習から興味と意欲をもって十分学び、う蝕や歯周病等の予防的処置や保健指導、地域の歯科保健活動に参画できるようにする。 【到達目標】 ①口腔衛生学の位置づけ、意義を理解する ②予防や保健、健康増進の概念・意義を理解する ③第一次予防、第二次予防、第三次予防について理解する ④歯や口腔の正常像、機能を理解する ⑤口腔の不潔と口腔清掃について理解する ⑥う蝕や歯周病の原因と予防法について学ぶ ⑦不正咬合や口臭、その他の口腔疾患の原因と予防法について学ぶ ⑧公衆歯科衛生の概念および地域歯科保健活動について理解する ⑨歯科疾患を表現する各種の指数と疫学について学ぶ ⑩得られたデータを統計処理する方法について学ぶ ⑪地域の歯科保健状況を分析する方法について学ぶ ⑫地域に必要な歯科保健対策を立案する方法について学ぶ ⑬地域の歯科保健活動を実施する方法について学ぶ
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 口腔衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学」 口腔衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」 【参考図書】 口腔保健学第2版（医歯薬出版） 新予防歯科学第3版（医歯薬出版） スタンダード口腔保健学（学建書院）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	口腔衛生学の意義 ① 口腔衛生学とは ②健康障害への対応の5つのステップ ③キューアとケア、そして公衆衛生
2	歯・口の健康（1） ①歯・口の正常像
3	歯・口の健康（2） ②歯・口の機能 ③全身と歯・口の発育
4	歯・口の健康（3） ③全身と歯・口の発育 ④全身疾患との関連
5	口腔の不潔（1） ①口の環境 ②歯の付着物・沈着物
6	口腔の不潔（2） ②歯の付着物・沈着物 ③不潔状態の表現、把握法
7	口腔清掃（1） ①口腔清掃の意義 ②口腔清掃法
8	口腔清掃（2） ③人工的清掃法の分類と用具 ④歯磨剤
9	口腔清掃（3） ⑤ブラッシングの術式 ⑥ブラッシング指導の概要
10	う蝕の予防（1） ①う蝕という病気
11	う蝕の予防（2） ②う蝕発病のしくみ
12	う蝕の予防（3） ③う蝕の発生要因
13	う蝕の予防（4） ④う蝕活動性
14	う蝕の予防（5） ⑤う蝕の予防法
15	う蝕の予防（6） ⑥フッ化物の応用
16	歯周疾患の予防（1） ①歯周疾患の疫学 ②歯周疾患の症状と分類 ③発病機構
17	歯周疾患の予防（2） ④予防手段 ⑤歯周疾患の予防処置
18	不正咬合の予防 ①不正咬合の成立 その他の疾患・異常の予防（1） ①顎関節症
19	その他の疾患・異常の予防（2） ②口臭 ③舌痛症 ④口腔癌 ⑤智歯周囲炎
20	公衆歯科衛生 ①公衆衛生とは ②公衆歯科衛生とは ③公衆歯科衛生の基礎となるもの ④公衆歯科衛生活動
21	地域歯科保健活動（1） ①主な活動分野 ②政策決定のための条件 ③集団検診と事後措置
22	地域歯科保健活動（2） ④保健教育 ⑤現場活動の場面
23	地域歯科保健活動（3） ⑥母子歯科保健
24	地域歯科保健活動（4） ⑦学校歯科保健
25	地域歯科保健活動（5） ⑧産業歯科保健
26	地域歯科保健活動（6） ⑨成人歯科保健活動 ⑩老人歯科保健
27	歯科疾患の疫学（1） ①疫学の基礎
28	歯科疾患の疫学（2） ②歯科疾患の疫学
29	歯科疾患の疫学（3） ②歯科疾患の疫学
30	歯科衛生統計 ①標本調査 ②実際の統計処置

20. 歯科衛生士概論 (実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	安藤 貴美
授 業 科 目 概 要	保健・医療福祉の概念および歯科疾患の概要を知り、歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割と業務上の義務と責任について十分理解して、歯科衛生士を目指す者としての学習態度、心構えなどを養えるようにする。
目 的	歯科医療の特異性、歯科衛生士の果たす役割と、業務上の義務と責任について理解を深め、社会のニーズを敏感にキャッチし、対応する力を身につける。歯科衛生士として患者、社会から信頼される人間性を身に着ける。
学 習 目 標	【一般目標】 歯科衛生を实践して人々の健康づくりを支援するものとなるために、保健医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識・技術を修得する。 【到達目標】 ① 歯科衛生学を概説できる。 ② 歯科衛生業務の歴史について説明できる。 ③ 歯科衛生と健康の関係について説明できる。 ④ 歯科衛生士法と関係する法規について概説できる。 ⑤ 科学的思考の必要性について説明できる。 ⑥ 歯科衛生士過程について概説できる。 ⑦ 医療安全対策の必要性と方策を概説できる。 ⑧ 多職種連携について説明できる。 ⑨ 災害時の歯科衛生士の役割について説明できる。 ⑩ 歯科衛生士の国際的なあり方について概説できる。 ⑪ 歯科衛生士の組織としての活動を概説できる。 ⑫ 歯科衛生士のキャリア形成について概説できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学概論 (医歯薬出版) プリント
留 意 事 項	学問知識のみでなく、希望をもって歯科衛生士を目指して学習する意欲を喚起できるようにする。

授業計画

回	内 容
1	授業オリエンテーション 1 章 歯科衛生学とは 2 章 歯科衛生の歴史
2	3 章 歯科衛生と健康
3	4 章 歯科衛生士法と関係する法規
4	6 章 歯科衛生実践のための理論 7 章 歯科衛生実践の展開 歯科衛生過程
5	8 章 医療安全確保における歯科衛生士の役割 安全管理 感染予防対策
6	9 章 保健・医療・福祉の制度と多職種連携
7	1 0 章 災害時における歯科衛生活動 1 1 章 歯科衛生士の国際化 1 2 章 組織活動
8	1 3 章 歯科衛生士のキャリア形成 まとめ

21. 歯科医療倫理 (実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	歯科医療を担っていくうえで必要な倫理的観念を感受し、歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割と業務上の義務と責任について十分理解して、歯科衛生士を目指す者としての学習態度、心構えなどを養えるようにする。
目 的	歯科医療の特異性、歯科衛生士の果たす役割について理解を深め、社会のニーズを敏感にキャッチし、対応する力を身につける。歯科衛生士として患者、社会から信頼される人間性を身に着ける。
学 習 目 標	【一般目標】 歯科医療に携わるために、生命と医療に関わる倫理の重要性を理解する。 【到達目標】 医療従事者として必要な、倫理・ルール (規範・規律)・法などの概念が理解できる インフォームド・コンセントの重要性について理解できる。 グループでコミュニケーションをとり、論理的思考で議論することができる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	自作プリント 【参考図書】 歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1・2	なぜ医療倫理を学ぶのか グループディスカッション
3・4	医療倫理に関する規範とバイオエシックス グループディスカッション
5・6	インフォーム・ド・コンセント グループディスカッション
7・8	研究と医療倫理 グループディスカッション まとめ

22. 歯科臨床概論

1 単位 (必修)

第 1 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	守本 勝幸
授 業 科 目 概 要	歯科基礎医学を概観し歯科医療を全体的に見る。歯科医療の特異性・医療従事者と患者さんとの関係・歯科診療のながれ・歯科疾患の概要・各診療科における治療の概要を講義する。
目 的	歯科医学に携わる者として、その仕事の間である歯科臨床についての概要を知ることが目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 現実の歯科医療がどのように行われ、どのような病気が存在し、どのように治療が行われていくのかを概観する。 【到達目標】 ① 医療と歯科医療に共通する倫理や歯科医療独特の問題を理解する。 ② 患者との対応、小児から高齢者、有病歯科患者に至るまでそれぞれの対応を考える。 ③ 歯科疾患の全容を概観する。詳細は各科の講義で行う。 ④ 歯科診療の概要と歯科診療のながれを理解する。 ⑤ 各診療科（保存・歯周病・補綴・小児・矯正・口腔外科）の治療の概要を理解する。それぞれの治療に於ける歯科衛生士の役割を理解する。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生士のための歯科臨床概論 第 2 版 （医歯薬出版）、プリント
留 意 事 項	講義内容が分割される場合があるため欠席をできるだけ避けるように。

授業計画

回	内 容
1	歯科医療① 歯科臨床とは何か、医の倫理とインフォームドコンセント
2	歯科医療② 歯科医療の特異性
3	歯科医療③ 歯科診療従事者の種類と役割
4	歯科患者 患者の心理、患者への対応特殊な歯科患者、標榜、加齢と歯科診療、小児歯科患者、高齢歯科患者
5	歯科診療の流れの概要① 受け入れ準備、受付、予診、診察、検査、診断、治療、メンテナンス
6	歯科診療の流れの概要② 応急処置、救急処置、バイタルサイン、AED、診査・検査・前処置
7	小児歯科治療の概要 小児期の分類、咬合誘導
8	矯正歯科治療の概要 不正咬合の種類、診断、治療
9	口腔外科治療の概要 口腔領域の疾患（炎症について）、診査（予診）
10	歯科保存治療の概要① 保存修復～インレー修復、CR
11	歯科保存治療の概要② 歯内療法～抜髄、根管治療の流れ
12	歯周治療の概要① 歯周疾患について、原因、症状、診査、治療
13	歯周治療の概要② 歯周治療の流れ、歯科衛生士の役割
14	歯科補綴治療の概要 補綴装置の種類、クラウン、ブリッジ、義歯治療の流れ
15	障害者歯科・高齢者歯科, 訪問診療,口腔ケア、誤嚥性肺炎、周術期

23. 歯科保存学 I

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	池田 欣希
授 業 科 目 概 要	歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」および「歯科漂白」から構成される。 「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対しての成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。 「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法などの各種治療法と臨床術式について説明する。 「歯科漂白」では、生活歯および失活歯の漂白法について臨床術式と作用メカニズムを解説する。
目 的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療の対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。さらに、歯の漂白法の概要と臨床術式を習得する。
学 習 目 標	【到達目標】 ・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。 ・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。 ・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。 ・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。 ・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。 ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。 ・ 歯のホワイトニングの手法を列挙できる。 ・ 生活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 失活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。
成 績 評 価 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。 事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。

授業計画

回	内 容
1	歯科保存学総論 ・ 歯科保存学について ・ 歯の保存の意義 ・ 歯科保存学の対象となる疾患
2	歯科保存修復学 ・ 保存修復の方法について ・ 歯科衛生士と保存修復 ・ 衛生指導の重要性
3	歯科保存修復学 ・ 問診、現症のとり方、 ・ 診査法、検査法
4	歯科保存修復学 ・ 歯の硬組織疾患（エナメル質う蝕、象牙質齦蝕） ・ う蝕の発生
5	歯科保存修復学 ・ 窩洞 ・ 歯面の略号と窩洞の名称 ・ 窩洞の具備すべき条件 ・ 欠損修復とその種類
6	歯科保存修復学 ・ 保存修復法（前準備、仮封剤、全体の流れ） ・ 回転切削器械・切削器具
7	歯科保存修復学 ・ コンポジットレジン修復の概要・特徴・適応症 ・ コンポジットレジンの種類 ・ セメント修復 ・ アマルガム修復
8	歯科保存修復学 ・ 鋳造修復の特徴 ・ 印象採得 ・ 技工室内作業 ・ 歯科審美について ・ ラミネートベニア修復 ・ その他の修復法

24. 歯科補綴学Ⅰ

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	小山 拳人
授 業 科 目 概 要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目 的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物（補綴装置）を用いて口腔の諸機能及び外観を回復する過程を理解する。
学 習 目 標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	基礎編① 1 章 歯科補綴の概要 2 章 I II III 歯科補綴治療の基礎知識
2	基礎編② 2 章 IV 咬合様式と顎運動
3	基礎編③ 3 章 歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療
4	臨床編 クラウン① 種類
5	臨床編 クラウン② 支台築造、形成、TeC
6	臨床編 クラウン③ imp、BT、技工、set
7	臨床編 ブリッジ① 構造、ボンティック
8	臨床編 ブリッジ② imp、BT、set

25. 歯周治療学 I

1 単位（必修）

第 1 学年（15 時間）

担 当 教 員 名	森本 達也
授 業 科 目 概 要	歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病態と原因、その予防と治療法について学ぶ。 歯周疾患における診査、診断、基本治療、歯周外科処置、再生治療、メンテナンス等について学習する。
目 的	歯周病の罹患率が高い現在、歯周治療は歯科衛生士としての実力がもっとも問われる分野である。予防や治療の方法を学び、その目的や理論を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	歯周治療に際し、基礎知識を理解した上で、それぞれの病態に応じた治療法を理解できるようにする。 併せて歯科衛生士の役割、予防とメンテナンスの重要性を認識する。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第 2 版（医歯薬出版）
留 意 事 項	関連教科である組織発生学、口腔解剖学、微生物学もしっかり学ぶこと

授業計画

回	内 容
1	歯周治療の基礎知識 歯周病の現状 歯周治療における歯科衛生士の役割 歯周治療の基礎知識 歯周組織の構造・機能
2	歯周治療の基礎知識 歯周疾患の病態 歯周疾患の原因と発症のメカニズム 1 バイオフィルム
3	歯周治療の基礎知識 歯周疾患の原因と発症のメカニズム 2 修飾因子 局所因子 生活習慣と全身性因子 機能因子とブラキシズム
4	歯周治療の実際 歯周治療の進め方 診査、診断、治療計画の立案 インフォームドコンセント 歯周治療の実際 歯周疾患の診査と診断 問診、一般診査、X線診査
5	歯周治療の実際 歯周組織検査 咬合診査 模型、口腔内写真 ブラキシズムについて
6	歯周治療の実際 基本治療 1 モチベーションの方法と実際 生活習慣指導
7	歯周治療の実際 基本治療 2 プラークコントロール ブラッシング
8	歯周治療の実際 基本治療 3 スケーリング スケーラー、キュレットの基本操作 歯面研磨

26. 口腔外科学 I

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	山崎 裕
授 業 科 目 概 要	わが国は高齢社会に突入し、歯科医療受診者においても糖尿病、高血圧、脳・心臓血管疾患など様々な全身疾患を有している事が多い。このような全身疾患の概要、歯科的注意事項を学ぶ。さらに、口腔顎顔面領域には、炎症、外傷、形態異常、腫瘍、嚢胞など様々な疾患が発生し、その中には、口腔に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身の部分症状として現れる疾患がある。このように口腔外科は、医科と歯科の境界領域を担う科目である。それぞれの原因、病態と症状・所見との関係、診断法、治療法について理解し、歯科衛生士としての診療における役割と実際面について習得する。
目 的	代表的な全身疾患を理解し、歯科的な注意事項、歯科衛生士の役割を習得する。 口腔外科領域の主な疾患と術式を理解し、口腔外科手術の準備、介助、術後のケアについて理解する。
学 習 目 標	1) 代表的な全身疾患の病態を理解したうえで歯科衛生士の役割を実践できる。 2) 口腔外科疾患の処置・手術に当たっては、病気の全体像（発病因と予後）を把握した上で介助を行うことができる。 3) 種々の口腔疾患に対する口腔外科手術、全身麻酔、局所麻酔における術式を理解し、口腔疾患を取り扱う上での歯科衛生士の役割を認識する。 4) 簡単な検査結果を正しく理解し、処置・手術時の不快症状（バイタルサイン）に早急に対応できる認識能力をつける。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第 2 版 (医歯薬出版)
留 意 事 項	口腔外科は理解する内容が多いため予習、復習に努める。

授業計画

回	内 容
1	・口腔外科と歯科衛生士 - 口腔外科とは - 口腔外科における歯科衛生士の役割
2	・口腔疾患と内科系疾患との関係 - 口腔疾患の全身への影響 - 内科系疾患を持つ患者の歯科治療 - 内科系疾患を持つ患者に対する投薬時の注意
3	・口腔領域の先天異常・変形 - 歯の異常 - 口腔軟組織の異常 - 口唇裂・口蓋裂 - 顎変形症
4	・口腔領域の炎症 - 歯槽部の炎症 - 顎骨の炎症 - 顎骨周囲組織の炎症 - 特異性炎 - 薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）
5	・口腔領域の損傷 - 歯の外傷 - 顎骨骨折 - 軟組織の損傷 ・顎関節疾患 - 顎関節症 - 顎関節脱臼 - 顎関節強直症
6	・唾液腺疾患 - 炎症性疾患 - 唾石症 - 唾液腺腫瘍 - 口腔乾燥症
7	・口腔領域の嚢胞と良性腫瘍 - 顎骨内にできる嚢胞と良性腫瘍 - 軟組織に生じる嚢胞と良性腫瘍
8	・口腔粘膜疾患 - 潰瘍を主徴とする疾患 - 水泡を主徴とする疾患 - 白斑を主徴とする疾患 - 紅斑およびびらんを主徴とする疾患 - 色素沈着 - 部位特有の疾患

担 当 教 員 名	小石 桃子
授 業 科 目 概 要	成長発育 正常咬合と咬合異常 診査、診断 治療方法、治療計画
目 的	正常咬合が成立するために必要な成長発育を理解し、加えて、咬合、診断法、治療の術式および、長期にわたる治療やフォローについて理解する。
学 習 目 標	① 成長発育を説明できる。 ② 正常咬合と咬合異常を理解し説明できる ③ 不正咬合の治療の種類を理解し、内容を説明できる ④ 使用器材の名称および使用方法を説明できる ⑤ 矯正装置の名称および使用方法を説明できる ⑥ 矯正装置を用いた治療のメカニクスを説明できる ⑦ 矯正治療における診療補助の前準備、術式、使用器材、メンテナンス、注意点を説明できる
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第 2 版 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科矯正学概論 歯科矯正学とは 成長・発育 頭部・顎・顔面の成長発育 顎の成長発育 歯・歯列の成長発育
2	咬合 咬合とは 正常咬合 不正咬合
3	不正咬合の分類 不正咬合の頻度 不正咬合の原因 不正咬合の予防
4	口腔習癖 口腔習癖の種類と発生頻度 口腔習癖の不正咬合への影響 指しゃぶりの原因 舌突出癖 咀嚼、発音への影響、嚥下の発達 筋機能療法
5	矯正治療の生物力学・矯正力と歯の移動 矯正力 歯の移動と組織反応 歯の移動様式
6	矯正診断に関する知識
7	矯正治療に使用する器材とその取り扱い方・1
8	矯正治療に使用する器材とその取り扱い方・2

28. 小児歯科学 I

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	中村 光一
授 業 科 目 概 要	小児の心身の発育・生理的特徴、小児の歯、歯列、咬合の発育、小児のう蝕の特徴と治療法、歯科的問題点、患児の対応法、正常な永久歯列を導くための装置、管理法を理解する
目 的	小児の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	① 小児の心身の発育・生理的特徴を説明できる ② 歯の萌出と交換、歯列咬合の変化を説明できる ③ 小児の精神発達を理解し、年齢にあった対応ができる ④ 乳歯および永久歯のう蝕予防のための保健指導、処置ができる ⑤ 乳歯う蝕の特徴と乳歯の歯冠修復、歯内療法を説明できる ⑥ 小児の外科的処置および薬物療法を説明できる ⑦ 咬合誘導装置の種類と意義を説明できる ⑧ 小児歯科の診療補助の前準備、術式、使用器材、処置後メンテナンスが説明できる
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	小児歯科概論 心身の発育 小児の生理的特徴
2	顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常 (乳歯・幼若永久歯の特徴)
3	歯列・咬合の発育と異常
4	小児の歯科疾患
5	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法(1) (患児、保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係)
6	小児歯科における患者との対応法(2) (歯科治療時の対応法)
7	小児歯科における診療体系(1) (小児歯科診療の特徴・原則・検査、診断・母親教室)
8	小児歯科における診療体系(2) (麻酔法・歯冠修復・幼若永久歯の歯冠修復)

29. 障害者歯科 I

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	澤田 武蔵
授 業 科 目 概 要	障害者の特性を把握し、障害の種類と歯科の特徴を理解する。障害者、高齢者と有病者の総合的な歯科医療における歯科衛生士の役割とその知識・技術について学習をする。
目 的	障害者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	様々な障害の種類と成り立ちを学び、障害者の特徴を理解する。 歯科治療時における注意点を学び、歯科衛生士としての役割を学ぶ。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 第 2 版 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	1 章 障害の概念 歯科医療におけるスペシャルニーズ、障害の分類、ノーマライゼーションとバリアフリー、スペシャルニーズの発生と受容
2	2 章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 精神遅滞、発達障害
3	ADHD、LD、脳性麻痺
4	筋ジストロフィー、脊髄損傷
5	関節リウマチ、脳血管障害
6	ALS、視覚障害、聴覚障害
7	統合失調症、うつ病、てんかん
8	認知症、虐待

30. 高齢者歯科 I

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	小野 智史
授 業 科 目 概 要	高齢者の身体的、精神的特性、さらに口腔の特性を把握、理解する。 高齢者の歯科診療および口腔保健管理における歯科衛生士の役割とその実際について学習する。
目 的	高齢者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	高齢者の歯科診療の歯科診療補助時の実際、留意点、および口腔保健管理における実際、留意点について学習し理解する。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「高齢者歯科学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	I 編 高齢者をとりまく社会と環境 1 章 高齢者をとりまく社会と環境 2 章 高齢者にかかわる法制度 3 章 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴
2	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 1 章 加齢に伴う身体的機能の変化（全身的变化）
3	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 1 章 加齢に伴う身体的機能の変化（全身的变化）
4	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 1 章 加齢に伴う身体的機能の変化（口腔・咽頭領域の加齢変化）
5	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 1 章 加齢に伴う身体的機能の変化（口腔・咽頭領域の加齢変化）
6	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 2 章 高齢者の精神・心理的变化 3 章 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患
7	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 2 章 高齢者の精神・心理的变化 3 章 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患
8	III 編 高齢者の状態と把握 1 章 高齢者の生活機能の評価 2 章 高齢者歯科と臨床検査

31. う蝕予防処置法 (実務教員による講義・実習)

2単位 (必修)

第1学年 (30時間)

担 当 教 員 名	松神 美翔子
授 業 科 目 概 要	う蝕予防の基礎知識を学び、マネキン上や相互実習でフッ化物応用法、鍍銀法、小窩裂溝填塞法、う蝕活動試験法の技術を習熟する。
目 的	う蝕予防に必要な知識を学び、各種予防技術を習熟する。
学 習 目 標	① う蝕の原因・発症・進行・特異性が説明できる。 ② フッ化物歯面塗布に用いる薬剤を説明できる。 ③ フッ化物歯面塗布法を理解し、実技・メンテナンスができる。 ④ フッ化物ジアンミン銀塗布に用いる薬剤を説明できる。 ⑤ フッ化ジアンミン銀塗布法を理解し、実技・メンテナンスができる。 ⑥ 小窩裂溝填塞法の対象歯を説明できる。 ⑦ 小窩裂溝填塞法を理解し、実技・メンテナンスができる。 ⑧ フッ素洗口を理解し、方法を指導できる。 ⑨ 各種う蝕活動性試験ができる。 ⑩ う蝕活動性試験の結果を有効に活用できる。 ⑪ 人・集団のう蝕予防法を説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，提出物，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	う蝕の基礎知識（座学）
2	う蝕活動性試験（座学） う蝕活動性試験の目的、種類
3	う蝕活動性試験（実習） 唾液流出量測定、Dentocult-SM、Dentocult-LB、RD テスト、CAT21test、Dentobuff Strip
4	う蝕活動性試験判定（実習） 唾液流出量測定、Dentocult-SM、Dentocult-LB、RD テスト、CAT21test、Dentobuff Strip
5	フッ化物の基礎知識①（座学）
6	フッ化物の基礎知識②（座学）
7	フッ化物の基礎知識③（座学） フッ化物計算
8	フッ化物 実習 フッ化物洗口法、トレー法、フッ化物テイスティング（フルオールゼリー、フローデン A、フローデンフォーム）
9	フッ化ジアンミン銀（座学・実習） フッ化ジアンミン銀の作用機序、術式、メンテナンス フッ化ジアンミン銀塗布実習（手指、布、抜去歯）
10	小窩裂溝填塞剤の知識（座学・実習） 小窩裂溝填塞法（器具、薬剤の取り扱い方、術式）
11・12	小窩裂溝填塞法（実習） 顎模型上実習
13	フッ化物塗布（相互実習）
14	フッ化物塗布（相互実習）
15	フッ化物塗布（相互実習）

32. 歯科予防処置論Ⅰ（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	歯科予防処置は、歯科疾患の発症および進行を予防し、口腔の健康を維持・増進するために歯科衛生士が担う重要な業務の一つである。本科目では、歯科に関わる基礎知識を学ぶとともに、口腔および口腔周囲の構造、歯周組織について基礎的理解を深める。また、口腔内の付着物・沈着物の種類と特徴、う蝕および歯周病の概要について理解し、歯石除去に使用する器具およびその基本的手順について学習する。これらを通して、歯科予防処置の基礎知識を習得し、今後の専門科目および臨地・臨床実習へとつなげる。
目 的	歯科予防処置に必要な基礎知識として、歯の名称や歯式、口腔および歯周組織の構造、口腔疾患の概要を理解する。また、歯石除去に関する基本的な知識および使用器具について学び、歯科予防処置の基礎を修得することを目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 歯科予防処置を理解するための基礎として、歯科に関する専門用語、歯の名称や歯式、口腔および歯周組織の構造について理解する。また、口腔内の付着物・沈着物、う蝕および歯周病の概要、歯石除去に使用する器具および基本的手順について学び、歯科予防処置の基礎的知識を修得する。 【到達目標】 ・歯科医療において用いられる基本的な専門用語を説明できる ・乳歯および永久歯の特徴と歯の名称を説明できる。 ・ジグモンディー歯式およびFDI歯式による歯の表記方法を説明できる。 ・歯の位置や方向を表す用語を説明できる。 ・口腔および口腔周囲の主な構造を理解できる。 ・歯周組織の構造と役割を説明できる。 ・口腔内の付着物および沈着物の種類と特徴を説明できる。 ・う蝕および歯周病の概要を理解できる。 ・歯石除去に使用する主な器具の名称と用途を理解できる。 ・歯石除去の基本的な流れおよび手順を理解できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満した者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版） プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科に関わる専門用語、乳歯・永久歯の特徴、歯の名称
2	ジグモンディー歯式、FDI 歯式、歯の方向用語
3	歯科予防処置の概要、口腔および口腔周囲の構造
4	歯周組織の構造と機能
5	口腔内の付着物・沈着物（プラーク、歯石、着色など）
6	う蝕および歯周病の概要
7	歯石除去で使用する器具
8	歯石除去の概要および基本的手順 まとめ

3.3. 歯科予防処置実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第1学年（60時間）

担 当 教 員 名	安藤 貴美
授 業 科 目 概 要	歯周病予防・治療における歯石除去技術を成熟するため、歯周病の基礎知識、必要器材・機械とその取り扱い、歯石除去技術の基本を習得させる。
目 的	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。
学 習 目 標	① 歯科予防処置の定義と内容を説明できる。 ② インストルメントの取り扱い、管理ができる。 ③ 手用スケーラーの種類と特徴が説明できる。 ④ 鎌型スケーラーの基本操作ができる。 ⑤ マネキン上での鎌型スケーラーによる部位別歯石除去ができる。 ⑥ 歯面研磨用器具・器材の使用法が説明できる ⑦ マネキン上での歯面研磨ができる。
成 績 評 価 方 法	1 筆記試験 2 実技試験 3 実習への取り組み、学習態度 以上により、総合的に評価し合否判定する。
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版 （医歯薬出版） プリント配布
留 意 事 項	注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1	歯科予防処置の概要 歯科疾患予防の体系・歯科衛生士が行う歯科予防処置 実習器具の使用方法について
2	歯石除去 歯石除去用の器械器具 スケーラーの把持・操作・固定
3～5	訓練用石膏棒で基本操作実習 前腕回転運動
6	マネキン操作について ホームポジション、マキシラアングル、ヘッドローテーション

回	内 容
7、8	歯石除去 マネキン実習（上顎前歯部 唇側左半分）
9	訓練用石膏棒で基本操作実習 手指屈伸運動
10、11	歯石除去 マネキン実習（上顎前歯部 唇側）
12、13	歯石除去 マネキン実習（上顎前歯部 口蓋側）
14、15	歯石除去 マネキン実習（下顎前歯部 唇側）
16、17	歯石除去 マネキン実習（下顎前歯部 舌側）
18、19	歯石除去 マネキン実習（右下臼歯部）
20、21	歯石除去 マネキン実習（右上臼歯部）
22、23	歯石除去 マネキン実習（左下臼歯部）
24、25	歯石除去 マネキン実習（左上臼歯部）
26～29	歯面研磨 研磨用具、研磨剤について マネキン実習
30	総括・復習

3 4. 歯科保健指導論 I (実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	益田 友美
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士業務の一つである歯科保健指導は、人々の日常生活の中の習慣や行動により、自らの健康の維持や増進することを助け、歯科保健向上に役立つように指導や教育を行うことである。歯科保健指導の概要を知ることにより対象となる人々の生活・習慣を学び、より健康支援の方法を説明できることを目的とする。
目 的	個人・小集団を対象とした歯科保健指導ができるようになるための基礎知識・技術を習得する。
学 習 目 標	* ライフステージの保健行動と指導目標を説明できる。 * コミュニケーションにカウンセリング技法を応用できる。 * 対象者の情報が把握できる。 * 保健指導の手順を説明できる。 * 業務記録のとり方を説明できる。 * 心身の状態別に保健指導計画をたてられる。 * カウンセリング技法を理解し、受容・傾聴・共感力を身につける。 * 業務記録の目的を説明できる。 * 対象集団別の指導計画をたてられる。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，提出物，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第 2 版 (医歯薬出版)、プリント
留 意 事 項	対象となる人を理解し、受容・傾聴・共感力を身につける。 注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1	歯科保健指導の概要 健康の概念、保健行動、生活行動 行動科学、行動変容とそのステップ
2	食生活指導（栄養指導）の基礎 1・2・3 食生活および食習慣の把握 食品とう蝕誘発性 う蝕予防のための食品摂取方法 キシリトールについて
3	ライフステージ （１） 母子保健歯科保健教育 妊産婦期・新生児期
4	ライフステージ 地域歯科保健 （１） 母子保健歯科保健教育 乳幼児期・幼児期
5	ライフステージ 地域歯科保健 （２） 学校歯科保健教育
6	ライフステージ 地域歯科保健 （３） 老人歯科保健教育
7	ライフステージ 地域歯科保健 （４） 障害歯科保健教育
8	歯科衛生過程 歯科衛生過程の概念

35. 歯科保健指導実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第1学年（60時間）

担 当 教 員 名	及川 佑季子
授 業 科 目 概 要	歯口清掃法や食事指導法を指導するだけでなく、いろいろな年齢の多様な歯科保健状態をもって、それぞれまったく異なった環境のもとで生活している個人に最も相応しい歯科保健行動をとれるように専門的な立場から援助できるよう学ぶ。
目 的	歯科保健指導ができるようになるための基礎知識・技術を習得する。
学 習 目 標	① 口腔清掃の意義・目的を説明できる。 ② 口腔清掃法、人工的清掃法の種類を言える。 ③ 口腔清掃の現状を把握できる。 ④ 口腔清掃用器材の種類と用途を説明できる。 ⑤ 各種ブラッシング法を実演できる。 ⑥ デンタルフロス、歯間ブラシの使用法を実演できる。 ⑦ ジェット水流洗口器、特殊歯ブラシ、電子歯ブラシの理論を言える。 ⑧ ジェット水流洗口器、特殊歯ブラシ、電子歯ブラシの使用法を実演できる。 ⑨ 歯面の付着物および沈着物の種類を説明できる。 ⑩ 口腔清掃状態の測定ができ、指数化できる。 ⑪ 自身の口腔清掃の方法を、適切に行うことができる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、提出物、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版） プリント
留 意 事 項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1	歯科保健指導とは 保健指導の基礎
2	歯科保健指導の基礎 口腔保健正常像の理解、歯・口腔の汚れの状態の観察、初期病変の理解
3～5	相互実習 口腔内観察実習（舌、頬粘膜、歯面、歯肉）
6、7	口腔清掃法 各種ブラッシング法、為害作用
8	口腔清掃法 実習

回	内 容
9、10	補助的清掃用具 デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ
11	補助的清掃用具 実習
12	歯磨剤・洗口剤 歯磨剤・洗口剤の種類、使用方法
13	歯磨剤・洗口剤 実習
14	歯垢染色剤 歯垢染色剤、染色方法
15	歯垢染色 実習
16、17	プラーク、歯石の歯数 PCR、OHI、OHI-S、PII、PHP
18	電動歯ブラシ 電動歯ブラシ、音波歯ブラシ、超音波歯ブラシ
19	電動歯ブラシ 実習
20～22	相互実習 染め出し、口腔清掃実習
23～25	相互実習 染め出し、口腔清掃実習
26～28	相互実習 染め出し、口腔清掃実習
29、30	まとめ

36. 歯科診療補助論Ⅰ（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担 当 教 員 名	飯田 彰 前田 萌
授 業 科 目 概 要	歯科診療補助の業務と歯科診療の補助を理解し、適切な患者対応ができるようになること。 また、歯科診療では種々の病原微生物に感染する可能性があり、歯科医療従事者は、日常臨床における院内感染防止対策に注意をはらわねばならない。そこで、微生物の特徴、感染症についての知識をもち、滅菌・消毒の重要性を理解して院内感染防止法の実際を習得させる。
目 的	歯科診療補助行為に関する業務概要について説明ができる。 患者対応の基本を理解する。 感染予防のための滅菌・消毒の重要性を理解し、臨床の場で実践できる。
学 習 目 標	* 微生物の種類・構造、細菌の発育条件を説明できる。 * 滅菌・消毒の定義、体系を説明できる。 * リスクアセスメント、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーションの概念を説明できる。 * 歯科医療における感染防止の重要性を説明できる。 * 診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での感染予防の対応ができる。 * 物理的消毒法の作用機序と効果・特徴・注意事項を説明できる。 * 煮沸消毒、高圧蒸気滅菌、乾熱滅菌、簡易乾熱滅菌、EOG 滅菌、超音波消毒、紫外線消毒ができる。 * アルコール高圧滅菌、火炎滅菌、低温プラズマ滅菌の理論を説明できる。 * フェノール係数・消毒薬の効果影響因子を説明できる。 * 薬品濃度の意味を説明できる。 * 消毒薬の作用機序と効果・特徴・使用方法、注意事項を説明できる。 * 逆性石鹼液、クロルヘキシジン、グルタラル、次亜塩素酸ナトリウム、イルガサン DP300 の薬液を調整することができる。 * 器材別滅菌・消毒を実際に行うことができる。 * 感染症患者の器具・材料の取り扱いができる。 * 医療廃棄物・バイオハザードマークについて説明できる。 * 主な感染症（B 型肝炎・C 型肝炎、AIDS、梅毒等）の滅菌・消毒ができる。 * 手指消毒やグローブの装着・着脱が実施できる * 患者の状態に応じた対応できる。 * 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを述べることができる。 * チーム医療の必要性を述べることができる。
成 績 評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 講義への取組み、学習態度、出席状況 以上により総合評価を行い可否判定する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版（医歯薬出版） 適宜資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科診療補助の概要 歯科診療補助の意義 補助と介助の違い
2	歯科診療所における受診の流れ 患者対応の基本 患者誘導
3	医療安全での歯科衛生士の役割 共同動作 院内感染とは（ハイシリッヒ、偶発事故、インシデントとヒヤリハットの実例） 感染事故時の対策（事故報告書、危険予知訓練）
4	感染防止 微生物の種類 滅菌・消毒の定義、体系 歯科医療における感染症の概念 リスクアセスメント、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーションの概念 歯科医療における感染防止対策 医療従事者としての対応、診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での対応
5	滅菌・消毒法 分類 煮沸消毒、高圧蒸気滅菌、アルコール高圧蒸気滅菌 乾熱滅菌、EOG 滅菌 超音波消毒、紫外線消毒、火炎滅菌、低温プラズマ滅菌他
6	薬液消毒法① 消毒薬の作用機序・条件・使用上の注意事項 フェノール係数・消毒液の効果影響因子・薬品濃度 消毒用エタノール、イソプロパノール、クレゾール石鹼液他
7	薬液消毒法② 逆性石鹼液、ヨードチンキ、ポピオンヨード クロルヘキシジン、グルタラル、次亜塩素酸ナトリウム他、 器材別滅菌・消毒法
8	医療廃棄物の取り扱い 医療廃棄物の種類、バイオハザードマーク 感染症の知識 B 型肝炎・C 型肝炎・AIDS の知識と滅菌法 感染症患者の対応 感染症患者治療時の準備・片付けの実例 まとめ

37. 歯科放射線学

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光
授 業 科 目 概 要	教科書として全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本である「歯科放射線（医歯薬出版）」を用い、放射線に関する基礎知識を学んだ後、歯科用 X 線撮影装置、撮影用器材、撮影法、フィルムの現像と管理、放射線防護、ならび放射線治療などについて講義する。
目 的	この授業の目的は、放射線の種類・物理的性質を理解するとともに、歯科臨床で用いられる放射線撮影装置の特徴、適切な使用法、ならびに実践的な技術を習得することにある。
学 習 目 標	放射線を安全に使用するための知識ならびに技術を習得する。 ・放射線の種類と特徴を説明できる。 ・放射線の人体に対する作用を説明できる。 ・放射線の防護法について説明できる（放射線の人工被爆防止法&被爆許容量など）。 ・歯科臨床で用いられる各種の放射線装置の特徴を説明できる。 ・口内法 X 線撮影の種類・方法が説明できる。 ・口内法 X 線撮影の準備ができる。 ・パンラマ X 線撮影の原理が説明できる。 ・パンラマ X 線撮影の準備ができる。 ・各種フィルムの現像・フィルムの保管・整理ができる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する。 ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う。 ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 1. 全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本「歯科放射線学 第2版（医歯薬出版）」 2. 授業開始時に適宜プリント配布
留 意 事 項	授業内容を理解するために、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。 また、少なくともその週のうちに復習する習慣をつけること。

授業計画

回	内 容
1	・放射線とは何か？ ・放射線による障害
2	・放射線の防護 ・X線撮影の基礎知識
3	・口内法X線撮影
4	・パノラマX線撮影 ・歯科用コーンビームCT
5	・口内法X線撮影実習
6	・パノラマX線撮影実習
7	・頭部X線画像検査 ・その他の画像検査（MRI・超音波・核医学検査）
8	・放射線治療と口腔管理 ・X線写真の読影

38. 歯科診療補助実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第1学年（60時間）

担当教員名	前田 萌
授業科目概要	歯科診療補助に必要な基礎的技術や歯科材料の種類・性質および基本的な取り扱いを習得する。
目的	実際の歯科診療補助に必要な技術を習得させる。
学習目標	歯科材料実習 * 診療室の環境と設備を整えられる。 * アルジネート印象材の性質を理解し、取り扱いの実技ができる。 * 石膏の性質を理解し、取り扱いの実技ができる。 * 各種セメント材の性質を理解し、練和できる。 * 日常の臨床で頻用される衛生材料の種類とその用途を理解し、各種材料を的確にかつ敏速に作製準備ができる。 * 綿栓を手早く巻くことができる。 * 手指消毒やグローブの装着・着脱が実施できる 理工学実習 * 印象材練和後の稠度と経過時間に伴う稠度の変化が説明できる。 * 各種石膏の硬化時間および硬化時の温度上昇との関係が説明できる。 * 練和した合着用セメントの調度が粉液比および練和後の時間経過によりどのように変化するか説明できる。 直接対面行為実習 * アルジネート印象材を使用して概形印象の採得ができる。 * バキューム操作、口腔内洗浄について理解し、患者への負担軽減を考えて迅速、確実、快速に操作ができる。 * 診療に応じたバキューム操作ができる。
成績評価方法	1. 筆記試験 2. 実技試験 以上により総合評価を行い合否判定する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」（医歯薬出版）
留意事項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1. 2	診療設備 診療設備の名称と使用法を習得
3. 4	感染予防対策 消毒・滅菌の準備と取り扱い 手指衛生、グローブ装着・着脱の手順
5. 6	共同動作 フォーハンデッドデンティストリーの基本と応用 ポジショニング 診療時のライティング

回	内 容
7	共同動作 バキュームテクニック、スリーウェイシリンジテクニックの基本
8	共同動作 マネキン実習：バキューム・スリーウェイシリンジ
9.10	共同動作 相互実習：バキューム・スリーウェイシリンジ
11.12	衛生材料作製 綿球・ロールガーゼ・綿栓（消毒用、綿栓）
13～15	模型用材料 種類と基本性質 歯科用石膏注入実習
16.17	印象採得 印象材の種類と基本性質
18～21	印象採得 マネキン実習：アルジネート印象材による概形印象採得（片顎）
22.23	印象採得 相互実習：アルジネート印象材による概形印象採得（片顎）
24.25	合着・接着剤・仮着セメントの基礎知識 種類と用途
26～29	合着・接着剤・仮着セメントの基礎知識 練和法 実習
30	まとめ

39. 臨地実習・臨床実習Ⅰ（実務教員による実習）

1単位（必修）

第1学年

（45時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希 益田 友美 安藤 貴美 山田 早希 石王 歩 及川 佑季子 前田 萌 松神 美翔子
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士とは歯科診療所の中でどのような役割を担っているか。医療人の一員として、歯科衛生士はどのようにあるべきか、実際に働いている歯科衛生士を見て、自分がなりたい歯科衛生士像を考える。
目 的	臨床の現場を見て医療人とはどうあるべきかを認識させる。
学 習 目 標	【一般目標】 歯科衛生士とはどのような役割を担っているのかを知る。 【到達目標】 どのような歯科衛生士が求められているかを感じる。 目指す歯科衛生士像が言える。
成 績 評 価 方 法	1. 臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 2. 出席状況 3. レポート 以上により総合評価を行い可否判定する。
教 材	【教科書】 これまでに使用したすべての教科書、プリント
留 意 事 項	注）授業計画の回数欄は、実習日数毎に分類した数字を示す。 臨地・臨床実習に必要なルールを遵守しない、身だしなみや礼儀作法が整わない場合は、担当教員の判断で中断する場合がある。

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 見学実習：1
2	歯科診療所 見学実習：2
3	歯科診療所 見学実習：3
4	歯科診療所 見学実習：4
5	歯科診療所 見学実習：5
6	歯科診療所 見学実習：6
7	歯科診療所 見学実習：7

シラバス

2026年度 昼間部2年



学校法人 札幌青葉学園

★ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	衛生行政・社会福祉	P4
2	歯科保存学Ⅱ	P6
3	歯科補綴学Ⅱ	P8
4	歯周治療学Ⅱ	P10
5	口腔外科学Ⅱ	P12
6	矯正歯科学Ⅱ	P14
7	小児歯科学Ⅱ	P16
8	障害者歯科Ⅱ	P18
9	高齢者歯科Ⅱ	P20
10	歯科麻酔学・有病者歯科医療	P22
11	歯科予防処置論Ⅱ	P24
12	歯科予防処置実習Ⅱ	P26
13	歯科保健指導論Ⅱ	P28
14	歯科保健指導実習Ⅱ	P30
15	歯科診療補助論Ⅱ	P32
16	臨床検査法	P34
17	歯科診療補助実習Ⅱ	P36
18	臨地実習・臨床実習Ⅱ	P38
19	医療情報処理	P40

教育課程 昼間部										
分野	教育内容	基準 単位数	開講 単位数	科目名称	単位数	学年別授業時間数			年間授業 時間数	備考
						1	2	3		
基礎 分野	科学的思考の基礎	10	12	生物学・組織発生学	2	30			30	
	生化学			2	30			30		
	教養基礎			1	15			15		
	栄養学			2	30			30		
	心理学			1	15			15		
	英語			1	15			15		
	情報処理			2	30			30		
	接遇作法			1	15			15		
小計	10	12		12	180	0	0	180		
専門基礎 分野	人体の構造と機能	15	17	解剖学	2	30			30	
	生理学			2	30			30		
	口腔解剖学			2	30			30		
	歯牙解剖学			2	30			30		
	口腔組織発生学			1	15			15		
	口腔生理学			2	30			30		
	薬理学・口腔薬理学			2	30			30		
	微生物学・口腔微生物学			2	30			30		
	病理学・口腔病理学	2	30			30				
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7	8	衛生学・公衆衛生学	2	30			30	
	口腔衛生学・歯科衛生統計	4	60			60				
衛生行政・社会福祉	2		30		30					
小計	22	25		25	345	30	0	375		
専門 分野	歯科衛生士概論	2	3	歯科衛生士概論	1	15			15	
				歯科医療倫理	1	15			15	
				歯科臨床概論	1	30			30	
	臨床歯科医学	8	17	歯科保存学Ⅰ	1	15			15	
				歯科保存学Ⅱ	1		15		15	
				歯科補綴学Ⅰ	1	15			15	
				歯科補綴学Ⅱ	1		15		15	
				歯周治療学Ⅰ	1	15			15	
				歯周治療学Ⅱ	1		15		15	
				口腔外科学Ⅰ	1	15			15	
				口腔外科学Ⅱ	1		15		15	
				矯正歯科学Ⅰ	1	15			15	
				矯正歯科学Ⅱ	1		15		15	
				小児歯科学Ⅰ	1	15			15	
				小児歯科学Ⅱ	1		15		15	
				障害者歯科Ⅰ	1	15			15	
				障害者歯科Ⅱ	1		15		15	
				高齢者歯科Ⅰ	1	15			15	
				高齢者歯科Ⅱ	1		15		15	
	歯科麻酔学・有病者歯科医療	1		15		15				
	歯科予防処置論	8	9	う蝕予防処置法	2	30			30	
				歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15	
				歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15	
				歯科予防処置実習Ⅰ	2	60			60	
				歯科予防処置実習Ⅱ	2		60		60	
				歯科予防処置実習Ⅲ	1			30	30	
	歯科保健指導論	7	9	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15	
				歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15	
				歯科保健指導実習Ⅰ	2	60			60	
				歯科保健指導実習Ⅱ	2		60		60	
				歯科保健指導実習Ⅲ	1			30	30	
				摂食機能訓練法	1			15	15	
				口腔筋機能訓練法	1			15	15	
	歯科診療補助論	9	12	歯科診療補助論Ⅰ	1	15			15	
				歯科診療補助論Ⅱ	1		15		15	
歯科放射線学				1	15			15		
臨床検査法				1		15		15		
救急蘇生法				1			15	15		
チームケア				1			15	15		
歯科診療補助実習Ⅰ				2	60			60		
歯科診療補助実習Ⅱ				3		90		90		
歯科診療補助実習Ⅲ				1			30	30		
臨地実習・臨床実習				20	25	臨地実習・臨床実習Ⅰ	1	45		
	臨地実習・臨床実習Ⅱ	12				540		540		
	臨地実習・臨床実習Ⅲ	12					540	540		
小計	54	75		75	495	945	690	2130		
選択必修 分野	7単位以上を選択	7	11	医療情報処理	2		30		30	
				症例検討	1			15	15	
				医療保険事務	1			15	15	
				総合学習Ⅰ	1			15	15	
				総合学習Ⅱ	2			30	30	
				総合学習Ⅲ	2			30	30	
				総合学習Ⅳ	2			30	30	
	小計	7	11		11	0	30	135	165	
合計	93	123		123	1020	1005	825	2850		
必修科目単位数(時間数)				112	1020	975	690	2685		
選択科目単位数(時間数)				11	0	30	135	165		
選択科目のうち卒業に必要な単位数(時間数)				7	0	105		105		
※必要に応じて「特別講義」を実施する。										
単位について 講義：1単位15-30時間 基礎実習：1単位30時間 臨床・臨地実習：1単位45時間										

授 業 実 施 計 画 表(昼間部)

科目 学則で定める科目名称	区分	授業 形式	学則等規定		第2学年											
			単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
衛生行政・社会福祉	必修	講義	2	30												
歯科保存学Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯科補綴学Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯周治療学Ⅱ	必修	講義	1	15												
口腔外科学Ⅱ	必修	講義	1	15												
矯正歯科学Ⅱ	必修	講義	1	15												
小児歯科学Ⅱ	必修	講義	1	15												
障害者歯科Ⅱ	必修	講義	1	15												
高齢者歯科Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯科麻酔学・有病者歯科医療	必修	講義	1	15												
歯科予防処置論Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯科予防処置実習Ⅱ	必修	実習	2	60												
歯科保健指導論Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯科保健指導実習Ⅱ	必修	実習	2	60												
歯科診療補助論Ⅱ	必修	講義	1	15												
臨床検査法	必修	講義	1	15												
歯科診療補助実習Ⅱ	必修	実習	3	90												
臨地実習・臨床実習Ⅱ	必修	実習	12	540												
医療情報処理	選択	講義	2	30												
			36	1005												

1. 衛生行政・社会福祉

2 単位 (必修)

第 2 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	佐藤 美寿々
授 業 科 目 概 要	これからの社会を担う歯科衛生士に必須となる、わが国の保健・医療・福祉の諸制度、関連法規、社会保障の仕組みについて概説する。
目 的	少子高齢化が進む中、歯科衛生士の役割はう蝕や歯周病の予防にとどまらず、全身の健康を見据えた口腔健康管理へと拡大している。医療従事者として各種法制度や行政の仕組みを理解し、保健・医療・福祉の協働や地域包括ケアシステムの中で歯科衛生士が果たすべき役割を学ぶ。
学 習 目 標	1. わが国の医療提供体制と医療関連法規（医療法、歯科三法、他職種の法規など）について理解する。 2. 歯科衛生士法に基づく専門性、業務範囲（歯科予防処置、歯科診療の補助、歯科保健指導）、義務および倫理について説明できる。 3. 地域包括ケアシステムや地域保健、母子保健、学校保健などの関連法規を理解する。 4. 社会保障制度（医療保険、介護保険、年金保険、社会福祉など）の仕組みを理解する。 5. 医療の動向（医療費や受療状況）について把握し、社会のニーズに対応できる基礎知識を身につける。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 保健・医療・福祉の制度（医歯薬出版） 配布プリント
留 意 事 項	予習、復習を必ずすること。

授業計画

回	内 容
1	わが国の医療制度と医療法（1 章） 内容：保健・医療・福祉の制度を学ぶ目的、歯科衛生士の専門性、わが国の医療制度の全体像、医療法の概要（医療提供の理念、医療の安全、医療施設）
2	歯科三法 ①歯科医師法・歯科技工士法（1 章） 内容：歯科医師法（業務独占、名称独占、義務等）、歯科技工士法（歯科技工と歯科医業、歯科技工指示書など）
3	歯科三法 ②歯科衛生士法（1 章） 内容：歯科衛生士法の目的、3 大業務（歯科予防処置、歯科診療の補助、歯科保健指導）、免許と登録、業務上の義務・守秘義務
4	医療関係職種（2 章） 内容：チーム医療に関わる他職種（看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、言語聴覚士、薬剤師等）の業務と関係法規の理解

回	内 容
5	その他の関係法規 ①地域包括ケアシステムと地域保健（3章） 内容：地域包括ケアシステムの背景と仕組み、地域保健に関する法律（地域保健法、保健所・市町村保健センター）、健康増進法
6	その他の関係法規 ②対象者別の保健関連法規（3章） 内容：母子保健法、学校保健安全法、労働安全衛生法、精神保健福祉法
7	その他の関係法規 ③歯科口腔保健法・薬事・衛生関連法規（3章） 内容：歯科口腔保健の推進に関する法律、薬事に関連する法規（医薬品医療機器等法など）、その他の衛生法規（食品衛生法、感染症法など）
8	社会保障 ①社会保障制度と医療保険（4章） 内容：社会保障と社会保険の仕組み、医療保険制度（被用者保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度、診療報酬の仕組み）
9	社会保障 ②介護保険（4章） 内容：介護保険制度の概要、保険給付の手続き、介護報酬、口腔関連の介護サービスと歯科衛生士の関わり
10	社会保障 ③年金保険・労働法規（4章） 内容：公的年金制度の仕組み、労働基準法、雇用保険、労働者災害補償保険
11	社会福祉 ①社会福祉行政と児童家庭福祉（4章） 内容：社会福祉の考え方、生活保護と法規、児童家庭福祉制度、児童虐待の防止等に関する法律
12	社会福祉 ②障害者・高齢者の福祉（4章） 内容：障害者の福祉制度（障害者総合支援法、障害者虐待防止法など）、高齢者の福祉制度（老人福祉法、高齢者虐待防止法、認知症基本法など）
13	医療の動向 ①健康状態と医療施設・従事者（5章） 内容：国民の健康状態と受療状況、歯科診療所や歯科医療従事者数の推移と動向
14	医療の動向 ②国民医療費（5章） 内容：国民医療費の範囲と状況、制度区分・年齢階級別の医療費、歯科診療医療費の推移
15	総復習・予備 内容：全14回の総まとめ、重要法規・制度の復習、質疑応答（試験への対策等）

2. 歯科保存学Ⅱ

1 単位（必修）

第2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	池田 欣希
授 業 科 目 概 要	歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」および「歯科漂白」から構成される。 「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対しての成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。 「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法などの各種治療法と臨床術式について説明する。 「歯科漂白」では、生活歯および失活歯の漂白法について臨床術式と作用メカニズムを解説する。
目 的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療の対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。さらに、歯の漂白法の概要と臨床術式を習得する。
学 習 目 標	【到達目標】 ・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。 ・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。 ・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。 ・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。 ・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。 ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。 ・ 歯のホワイトニングの手法を列挙できる。 ・ 生活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 失活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。
成 績 評 価 法	① 筆記試験 ② 講義への取り組み方、出席点、学習態度 以上により総合評価を行い、可否を判定する
教 材	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。 事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。

授業計画

回	内 容
1	歯内療法学 ・ 歯内療法学の概要 ・ 歯の痛み ・ 歯髄・根尖性歯周組織の症状と診断
2	歯内療法学 ・ 歯髄・根尖性歯周組織の処置方針
3	歯内療法学 ・ 歯科衛生士と歯内療法 ・ 歯髄の保存療法
4	歯内療法学 ・ 歯髄の除去療法 ・ 歯髄切断法 ・ 生活歯髄切断法 ・ 失活歯髄切断法 ・ 抜髄法 ・ 器具と滅菌・消毒法
5	歯内療法学 ・ 感染根管治療の基本概念 ・ 根管治療の術式 ・ 器具・器材の準備
6	歯内療法学 ・ 根管充填
7	歯内療法学 ・ 外科的歯内療法 ・ 漂白法
8	保存修復学 模型実習 コンポジットレジン充填

3. 歯科補綴学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	小山 拳人
授 業 科 目 概 要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目 的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物（補綴装置）を用いて口腔の諸機能および、外観を回復する過程を理解する。
学 習 目 標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	臨床編 部分床義歯① 概要、名称、分類
2	臨床編 部分床義歯② クラスプ、アタッチメント
3	臨床編 部分床義歯③ 大連結子、臨床ステップ
4	臨床編 全部床義歯① 概要、名称、前処置
5	臨床編 全部床義歯② 印象、咬合採得
6	臨床編 全部床義歯③ set、指導
7	臨床編 インプラント 構造、臨床
8	臨床編 器材と材料 使い方、特性

4. 歯周治療学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	森本 達也
授 業 科 目 概 要	歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病態と原因、その予防と治療法について学ぶ。 歯周疾患における診査、診断、基本治療、歯周外科処置、再生治療、メンテナンス等について学習する。
目 的	歯周病の罹患率が高い現在、歯周治療は歯科衛生士としての実力がもっとも問われる分野である。予防や治療の方法を学び、その目的や理論を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	歯周治療に際し、基礎知識を理解した上で、それぞれの病態に応じた治療法を理解できるようにする。 併せて歯科衛生士の役割、予防とメンテナンスの重要性を認識する。
成 績 評 価 方 法	1, 筆記試験 2, 講義への取り組み方、学習態度 以上により総合評価を行い可否判定する。
教 材	教科書：歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版（医歯薬出版）
留 意 事 項	関連教科である組織発生学、口腔解剖学、微生物学もしっかり学ぶこと

授業計画

回	内 容
1	歯周治療の実際 基本治療 4 ルートプレーニング 知覚過敏処置
2	歯周治療の実際 基本治療 5 咬合調整、暫間固定
3	歯周治療の実際 歯周外科処置 1 外科的歯周治療の目的 基本手技と使用器具 ポケット搔爬術、新付着術
4	歯周治療の実際 歯周外科処置 2 歯肉切除術、フラップ手術
5	歯周治療の実際 歯周外科処置 3 歯肉歯槽粘膜外科手術 組織再生誘導法
6	歯周治療の実際 咬合性外傷に対する治療法 咬合調整、ナイトガード、固定法 薬物療法、矯正治療 歯周組織の治癒の形態と再生治療
7	歯周治療の実際 歯周治療後のメンテナンス、歯科衛生士の役割
8	歯周治療の実際 患者管理 病状の理解、心理状態の把握 治療後の援助 器具の消毒法 総括

5. 口腔外科学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	山崎 裕
授 業 科 目 概 要	わが国は高齢社会に突入し、歯科医療受診者においても糖尿病、高血圧、脳・心臓血管疾患など様々な全身疾患を有している事が多い。このような全身疾患の概要、歯科的注意事項を学ぶ。さらに、口腔顎顔面領域には、炎症、外傷、形態異常、腫瘍、嚢胞など様々な疾患が発生し、その中には、口腔に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身の部分症状として現れる疾患がある。このように口腔外科は、医科と歯科の境界領域を担う科目である。それぞれの原因、病態と症状・所見との関係、診断法、治療法について理解し、歯科衛生士としての診療における役割と実際面について習得する。
目 的	代表的な全身疾患を理解し、歯科的な注意事項、歯科衛生士の役割を習得する。 口腔外科領域の主な疾患と術式を理解し、口腔外科手術の準備、介助、術後のケアについて理解する。
学 習 目 標	1) 代表的な全身疾患の病態を理解したうえで歯科衛生士の役割を実践できる。 2) 口腔外科疾患の処置・手術に当たっては、病気の全体像（発病因と予後）を把握した上で介助を行うことができる。 3) 種々の口腔疾患に対する口腔外科手術、全身麻酔、局所麻酔における術式を理解し、口腔疾患を取り扱う上での歯科衛生士の役割を認識する。 4) 簡単な検査結果を正しく理解し、処置・手術時の不快症状（バイタルサイン）に早急に対応できる認識能力をつける。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第 2 版（医歯薬出版）
留 意 事 項	口腔外科は理解する内容が多いため予習、復習に努める。

授業計画

回	内 容
1	・ 口腔領域の悪性腫瘍 - 癌（扁平上皮癌） - 肉腫、悪性リンパ腫、悪性黒色腫 - その他
2	・ 血液疾患と出血性素因 - 貧血 - 白血病 - 出血性素因
3	・ 口腔領域の神経疾患 - 三叉神経痛 - 顔面神経麻痺 - 神経障害性疼痛
4	・ 口腔外科診療の実際 - 診察と診断 - 滅菌と消毒 - 創傷の治癒 - 診察と診断の過程における歯科衛生士の役割
5	・ 拔牙術 - 適応症と禁忌症，偶発症，止血方法 - 器材の準備 - 拔牙の実際と介助
6	・ 口腔外科小手術 その1 - 手術器具の種類と使い方，麻酔方法 - 歯槽整形および骨瘤除去手術 - 切開・排膿の手術
7	・ 口腔外科小手術 その2 - 軟組織の手術（小帯切除，粘液嚢胞摘出） - 歯および歯槽骨外傷の処置 - 口腔インプラント
8	・ 口腔ケア - 嚥下障害と誤嚥性肺炎 - 周術期における口腔ケア - 緩和医療における口腔ケア

6. 矯正歯科学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	小石 桃子 鈴木 悠人
授 業 科 目 概 要	正常咬合と咬合異常 診査、診断 治療方法、治療計画
目 的	咬合、診断法、治療の術式および、長期にわたる治療やフォローについて理解する。
学 習 目 標	① 正常咬合と咬合異常を理解し説明できる ② 咬合異常の治療の種類を理解し、内容を説明できる ③ 使用器材の名称および使用方法を説明できる ④ 矯正装置の名称および使用方法を説明できる ⑤ 矯正装置のメカニクスを説明できる ⑥ 矯正治療における診療補助の前準備、術式、使用器材、メンテナンス、注意点を説明できる
成 績 評 価 方 法	定期試験 小テストなどの総合成績とする。
教 材	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第 2 版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	矯正装置 保定
2	歯科矯正治療の実際 早期治療の必要性 乳歯列期に歯科矯正治療の対象となる不正咬合 混合歯列期に歯科矯正治療の対象となる不正咬合
3	永久歯咬合期の歯科矯正治療 成人の歯科矯正治療
4	歯科矯正における歯科衛生士の役割 矯正臨床における歯科衛生士の役割 歯科矯正治療開始前の診査、資料収集、診断、治療前の説明と承諾 予防処置と口腔衛生指導
5	口腔習癖の除去 患者教育と患者管理
6	矯正治療中の装置の破損、応急処置 ボンディングの前準備とアーチワイヤーの装着
7	歯間離開、バンド適合、溶接
8	消毒・殺菌・滅菌 事務管理 まとめ
9 特別講義	模型実習 バンド、ブラケットセット、ワイヤー調整（ループなど）、結紮、プライヤーなどの説明

7. 小児歯科学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	中村 光一
授 業 科 目 概 要	小児の心身の発育・生理的特徴、小児の歯、歯列、咬合の発育、小児のう蝕の特徴と治療法、歯科的問題点、患児の対応法、正常な永久歯列を導くための装置、管理法を理解する
目 的	小児の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	① 小児の成長発育を説明できる ② 歯の萌出と交換、歯列咬合の変化を説明できる ③ 小児の精神発達を理解し、年齢にあった対応ができる ④ 乳歯および永久歯のう蝕予防のための保健指導、処置ができる ⑤ 乳歯う蝕の特徴と乳歯の歯冠修復、歯内療法を説明できる ⑥ 小児の外科的処置および薬物療法を説明できる ⑦ 咬合誘導装置、口腔習癖除去装置の種類と意義を説明できる ⑧ 小児歯科の診療補助の前準備、術式、使用器材、処置後メンテナンスが説明できる
成 績 評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 講義への取り組み方、出席状況、学習態度 以上により総合評価を行い可否を判定する。
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	小児歯科における診療体系(3) (歯内療法・外科処置・外傷歯の処置・咬合誘導・定期健診)
2	障害児の歯科治療
3	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(1) (診察検査時の業務・齲蝕予防・ブラークコントロール)
4	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(2) (診療補助・保存修復 ラバーダム防湿・コンポジットレジン充填・インレー修復・乳歯冠・コンポジットレジン冠)
5	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(3) (歯内療法 歯髄鎮静法・歯髄切断法・抜髄法・感染根管治療)
6	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(4) (外科的処置 抜歯・外傷歯の処置・咬合誘導)
7	小児の口腔保健管理
8	まとめ
9 特別講義	ラバーダム模型実習

8. 障害者歯科Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	今渡 隆成
授 業 科 目 概 要	障害者の特性を把握し、障害の種類と歯科の特徴を理解する。障害者、高齢者と有病者の総合的な歯科医療における歯科衛生士の役割とその知識・技術について学習をする。
目 的	障害者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	様々な障害の種類と成り立ちを学び、障害者の特徴を理解する。 歯科治療時における注意点を学び、歯科衛生士としての役割を学ぶ。
成 績 評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 講義への取り組み方、出席点、学習態度 以上により総合的に評価し可否を判定する。
教 材	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 第2版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	3 章 障害者の歯科医療と行動調整 行動療法（行動変容法）、体動のコントロール、薬物的行動調整法
2	4 章 健康支援と口腔衛生管理 障害者本人や介助者が行う口腔のケアの支援、専門的口腔ケア
3	5 章 リスク評価と安全管理 障害者歯科におけるリスク評価、障害別のリスクと対応、医療安全管理体制、感染制御体制
4	6 章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 摂食嚥下リハビリテーションとは、摂食嚥下障害と口腔管理、摂食嚥下障害と栄養管理
5	摂食嚥下障害の評価法、摂食機能療法、小児期の摂食嚥下障害への対処法、成人期・老年期の摂食嚥下障害の評価と対処法
6	7 章 地域における障害者歯科 障害者歯科と地域医療連携、障害者歯科と関連職種、保険・医療・福祉のネットワーク
7	8 章 障害者歯科における歯科衛生過程
8	まとめ

9. 高齢者歯科Ⅱ

1 単位（必修）

第2学年 （15時間）

担 当 教 員 名	小野 智史
授 業 科 目 概 要	高齢者の身体的、精神的特性、さらに口腔の特性を把握、理解する。 高齢者の歯科診療および口腔保健管理における歯科衛生士の役割とその実際について学習する。
目 的	高齢者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	高齢者の歯科診療の歯科診療補助時の実際、留意点、および口腔保健管理における実際、留意点について学習し理解する。
成 績 評 価 方 法	講義の出席点、授業態度、および筆記試験結果を総合的に評価し可否を判定する。
教 材	歯科衛生学シリーズ 「高齢者歯科学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	Ⅲ編 高齢者の状態の把握 3章 高齢者の栄養状態 4章 高齢者の薬剤服用
2	Ⅳ編 口腔ケア 1章 高齢者に対する口腔ケア
3	Ⅳ編 口腔ケア 2章 有病高齢者への口腔ケア
4	Ⅳ編 口腔ケア 3章 要介護高齢者への口腔ケア
5	Ⅴ編 摂食、嚥下リハビリテーション 1章 高齢者のリハビリテーションの概要
6	Ⅴ編 摂食、嚥下リハビリテーション 2章 摂食、嚥下の評価と対応
7	Ⅴ編 摂食、嚥下リハビリテーション 2章 摂食、嚥下の評価と対応
8	まとめ

10. 歯科麻酔学・有病者歯科医療

1 単位（必修）

第2学年（15時間）

担 当 教 員 名	詫間 滋
授 業 科 目 概 要	歯科治療は痛みを伴うことが少なくなく、患者にとって大きな精神的・身体的ストレスとなる。特に有病者においては、そのストレスが生体の恒常性（ホメオスタシス）を破綻させる誘因となり、場合によっては患者が生命の危機にさらされる可能性がある。歯科麻酔学は、歯科治療に伴う侵襲からいかに患者を守り、いかに偶発症を未然に防ぐか、そして、いかに患者の心身の安全を確保するかを考える学問である。
目 的	全身状態の評価に必要な基礎知識を学び、バイタルサインを把握するための生体情報モニターの取り扱いを理解する。日常の歯科臨床で遭遇する頻度が高い全身疾患や、歯科治療恐怖症・異常絞扼反射を理解し、また歯科治療の侵襲を制御するための局所麻酔法・全身管理（精神鎮静法・全身麻酔法）の概要、必要な薬剤、器材、使用方法を学び、起こりうる偶発症に歯科衛生士として適切に対処できるための知識を習得する。
学 習 目 標	・バイタルサインおよび生体情報モニターの取り扱いが説明できる。 ・局所麻酔法に必要な機材・薬剤、使用方法、および起こりうる偶発症、その対処法が説明できる。 ・全身管理（精神鎮静法、全身麻酔法）の概要、使用する器材・薬剤を説明できる。 ・代表的な全身疾患の概要と、歯科治療における留意点を説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生士学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科麻酔学の概念・歯科麻酔学とは？
2	呼吸・循環の生理 バイタルサイン・モニタリング
3	局所麻酔法
4	精神鎮静法
5	全身麻酔法
6	歯科治療時の全身的偶発症
7	歯科治療恐怖症・異常絞扼反射
8	有病者の歯科治療

11. 歯科予防処置論Ⅱ（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第2 学年（15 時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	本科目では、歯科衛生士が行う歯科予防処置に必要な知識として、口腔内の状態を把握するための歯周組織の各種検査および評価方法について学ぶ。プロービングデプス（PPD）、プロービング時出血（BOP）、臨床的アタッチメントレベル（CAL）、根分岐部病変、付着歯肉幅、歯の動揺度などの歯周検査の目的と方法を理解し、口腔内の状態を適切に評価するための基礎的知識を修得する。 さらに、歯科衛生士による歯科予防処置として、機械的スケーラーおよびキュレットタイプスケーラー（グレーシー、ユニバーサル）の特徴と操作法、歯面清掃および歯面研磨の目的と方法、スケーラーのシャープニングについて学ぶことで、歯科予防処置の理論的基礎を理解し、臨床実習および歯科予防処置実習へとつながる知識の習得を目的とする。
目 的	歯周組織の状態を把握するための各種検査方法および使用器具について理解するとともに、歯科衛生士が行う歯科予防処置としてのスケーリング、歯面清掃および歯面研磨に関する基本的知識を修得することを目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 口腔内の状態を把握するための歯周組織の各種検査および評価方法について理解する。また、歯科衛生士が行う歯科予防処置としてのスケーリング、歯面清掃、歯面研磨およびシャープニングに用いる器具の種類や特徴、基本的操作法について理解し、歯科予防処置の理論的基礎を修得する。 【到達目標】 1. 歯周組織の状態を評価する各種検査（PPD、BOP、CAL、根分岐部病変）の目的と方法を説明できる。 2. 付着歯肉幅および歯の動揺度の評価方法を説明できる。 3. 歯周検査に使用する主な器具の名称と用途を識別できる。 4. 歯科衛生士が行う歯科予防処置の役割を理解できる。 5. 機械的スケーラーの種類と特徴および操作法を説明できる。 6. キュレットタイプスケーラー（グレーシー、ユニバーサル）の特徴と用途を識別できる。 7. キュレットタイプスケーラーの基本的操作法を理解できる。 8. 歯面清掃および歯面研磨の目的と方法を説明できる。 9. スケーラーのシャープニングの目的と基本の手順を理解できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2 版（医歯薬出版） プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	口腔の器質的問題の把握：歯周組織の各種検査と使用器具（PPD、BOP、CAL、根分岐部病変）
2	口腔の器質的問題の把握：歯周組織の各種検査（付着歯肉幅、歯の動揺度）
3	歯科衛生介入としての歯科予防処置：機械的スクレーラーの種類と特徴、基本的操作法
4	歯科衛生介入としての歯科予防処置：キュレットタイプスクレーラーの種類と特徴（グレーシー、ユニバーサル）
5	歯科衛生介入としての歯科予防処置：キュレットタイプスクレーラーの操作法①（グレーシー、ユニバーサル）
6	歯科衛生介入としての歯科予防処置：キュレットタイプスクレーラーの操作法②（グレーシー、ユニバーサル）
7	歯科衛生介入としての歯科予防処置：歯面清掃および歯面研磨
8	歯科衛生介入としての歯科予防処置：スクレーラーのシャープニング まとめ

12. 歯科予防処置実習Ⅱ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第2学年（60時間）

担当教員名	中村 麻希 安藤 貴美
授業科目概要	マネキン上で習得した歯石除去技術を口腔内で実践し、各種器具の使用法や術前後の処置、器材の後始末、メンテナンスなどについて習得する。
目的	歯石除去を口腔内で実践するために、歯石除去技術の向上を図り、患者の反応を見ながら施術する習慣を身につけさせる。
学習目標	1. マネキン上でキュレット操作ができる。 2. 相互実習により、鎌型スケーラーを使用して歯石除去ができる。 3. 相互実習により、歯面研磨ができる。 4. 相互実習により、歯周検査ができる。 5. 相互実習により、パワースケーラーを使用して歯石除去ができる。 6. 個々の口腔内に適した方法で歯石除去できる。 7. 歯石除去後のメンテナンスができる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版） プリント配布
留意事項	注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す

授業計画

回	内 容
1	キュレット操作に使用する器械器具 顎模型上で実習
2	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、ホームポジション）
3. 4	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、上顎前歯部）
5. 6	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、下顎前歯部）
7. 8	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、上顎臼歯部・1）
9. 10	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、上顎臼歯部・2）
11. 12	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、下顎臼歯部・1）
13. 14	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、下顎臼歯部・2）
15～24	相互実習 歯周組織検査 鎌型スケーラー 歯面研磨・口腔内洗浄
25	歯石除去用器械器具について 超音波スケーラー、エアスケーラーの原理と構成、特徴、使用方法 歯面清掃器の特徴、使用方法
26～29	相互実習 超音波スケーラー、エアスケーラー
30	総括・復習

13. 歯科保健指導論Ⅱ (実務教員による講義)

1単位(必修)

第2学年 (15時間)

担当教員名	及川 佑季子
授業科目概要	ライフステージの特性を理解し、歯や口腔については勿論の事、総合的な健康への適切な支援を行う必要がある。配慮を要する方の特徴と注意事項、歯科衛生介入について学ぶ。 医療、介護、福祉などの現場において多職種と連携することで効果的な健康教育ができる。地域で活動する歯科衛生士の役割を理解し、多職種と連携して地域歯科保健の推進が出来るように基礎的知識を学ぶ。
目的	配慮を要する方への歯科衛生介入ができるようになるための基礎知識を習得する。 地域歯科保健活動における健康教育ができるようになるための基礎知識を習得する。
学習目標	① 対象者の情報が把握できる。 ② 要介護高齢者の特徴を説明し、歯科衛生介入を実施できる。 ③ 障害児者の特徴を説明し、歯科衛生介入を実施できる。 ④ 大規模災害被災者の特徴を説明し、歯科保健活動を説明できる。 ⑤ 健康教育の対象と場の特徴を概説できる。 ⑥ 健康教育の評価を説明できる。 ⑦ 健康教育活動の方法を説明できる。 ⑧ 健康教育に必要な情報を収集できる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版(医歯薬出版)、プリント
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	要介護高齢者 大規模災害被災者
2	地域歯科保健活動の健康教育
3	訪問歯科保健活動に必要な知識 留意すべき全身疾患と口腔衛生管理
4	訪問歯科保健活動に必要な知識 口腔衛生管理の流れ、必要な器具について
5	摂食嚥下リハビリテーション 口腔機能低下症について 実習（とろみ茶体験、咀嚼機能検査、スポンジブラシ）
6	摂食嚥下リハビリテーション 口腔機能管理について（マナボット見学実習） 間接訓練、直接訓練
7	相互実習 片麻痺患者の口腔衛生管理実習
8	相互実習 片麻痺患者の口腔衛生管理実習

14. 歯科保健指導実習Ⅱ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第2学年

（60時間）

担当教員名	山田 早希 安藤 貴美
授業科目概要	歯科保健指導論で学んだ内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた歯科口腔管理ができる指導能力を習得させる。
目的	対象別、症例別歯科保健指導ができるようになる。 症例の中の具体的問題点を抽出して、その問題解決に適する技法を具体的に検討できるようになる。
学習目標	*専門的・基礎的知識を整理し、症例分析に役立てることができる *対象別の歯科保健の知識がいえる *それぞれ対象別の問題点を理解し、個人に適した指導計画を立てることができる *指導に必要とされる媒体などを正しく選択できる *カウンセリング技法を理解し、バラカウンセラーとして活用できる *主事の歯科医師の指導方針を把握することができる *患者や相談者の訴えを正確にとらえることができる *全身状態や口腔の状態の特徴をつかむことができる *イニシャルプレパレーションの目的と定義が言える
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）、プリント
留意事項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

【第2学年】

回	内 容
1、2	面接・問診法実習、コミュニケーショントレーニング
3	診療録、問診事項検討実習
4、5	初診時面接法実習 保健指導時面接法実習

回	内 容
6～9	相互実習 ブラッシング指導モデル実習
10、11	口腔内写真撮影法
12～15	口腔内写真撮影実習
16、17	症例検討法実習（１）（２） 下顎大臼歯にブリッジ装着のケース、部分床義歯装着のケース
18、19	症例検討法実習（３）（４） 高度な分岐部病変を有する歯周疾患のあるケース、強い指しゃぶりの習慣があるケース
20、21	症例検討法実習（５）（６） 第一大臼歯が崩出途上にあるケース、甘味嗜好が強く、う食が多発しているケース
22～24	保健指導話法実習
25～27	小集団指導法実習 発声・朗読法実習
28～30	小集団用講和台本作成法実習

15. 歯科診療補助論Ⅱ (実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第2学年 (15時間)

担 当 教 員 名	石王 歩
授 業 科 目 概 要	臨地・臨床実習に臨む前段として必要な基礎知識 (器具・器材) を学び、術者との共同動作や対面行為の実際について学ぶ。
目 的	臨地・臨床実習の概要を知り診療補助に必要な器具・器材を学び安全な操作ができる。
学 習 目 標	〈到達目標〉 歯科材料の基本的性質、用途、取扱いについて科学的に理解し安全に使用できる 臨地・臨床実習の実際を知り、主体的に学ぶことができる 〈行動目標〉 ・臨地・臨床実習での器具・器材をレポートで記載することができる ・相手から求められる事を理解し実行できる ・「主体的に学ぶ」ということを様々な事例から理解できる ・診療中の偶発事故の防止および対処法の説明ができる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」 (医歯薬出版) 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル 第2版 (医歯薬出版) 適時資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科器具・器材 歯科保存 1
2	歯科器具・器材 歯科保存 2
3	歯科器具・器材 歯科補綴 1
4	歯科器具・器材 歯科補綴 2
5	歯科器具・器材 歯科矯正 1
6	歯科器具・器材 歯科口腔外科 1
7	歯科器具・器材 歯科口腔外科 2
8	まとめ

16. 臨床検査法

1 単位（必修）

第2学年 （15時間）

担 当 教 員 名	本間 将一 杉田 久子 山田 早希
授 業 科 目 概 要	歯科診療補助を行う際の全般的な知識と 歯科衛生士に最小限必要な臨床検査の方式を習得する。
目 的	臨床検査の方法を学び、その正常値を学習し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	臨床検査 ① 検査と歯科衛生士の役割を理解する。 ② 検査の種類を学ぶ。 ③ 生体検査（体温・脈拍・血圧・経皮的動脈血酸素飽和度）の方法を理解する。 ④ 尿の一般知識と尿検査の意味を理解する。 ⑤ 採血法と血液検査の知識を得る。 ⑥ 血液型検査の方法を理解する。 ⑦ 貧血検査・出血性素因検査・感染症検査について理解する。 ⑧ 肝機能検査の最低限の知識を修得する。 ⑨ 糖尿病検査の知識を得る。 ⑩ 病理検査について理解する。 ⑪ 口腔領域における各種臨床検査の方法を理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「臨床検査」（医歯薬出版） 適時資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	1 章 臨床検査とは (1) 臨床検査の倫理と安全性 (2) 臨床検査はなぜ必要か (3) どんな検査があるのか (4) 検査成績の読み方 2 章 生体検査 (生理機能検査) (1) 体温検査 (2) 脈拍検査
2	(3) 血圧検査 (4) 心機能検査 (5) 肺機能検査 (6) 筋電図検査 (7) 脳波検査 (8) 血中酸素濃度検査 3 章 検体検査 (1) 血液を用いる検査 1.血液検査
3	2.血液凝固・線溶系検査 3.生化学検査 4.免疫・血清検査 5.血液型検査 6.その他の検査
4	(2) 感染症検査 (3) 病理検査 4 章 口腔領域の臨床検査 (1) 口臭検査 (2) 味覚検査 (3) 歯科金属アレルギーの検査
5	(4) 舌の検査 (5) 口腔粘膜の検査 エックス線写真検査 マイクロスコープによる検査
6	バイタルサイン測定実習
7	バイタルサイン測定実習
8	まとめ

17. 歯科診療補助実習Ⅱ（実務教員による講義・実習）

3単位（必修）

第2学年（90時間）

担当教員名	益田 友美 及川 佑季子 前田 萌
授業科目概要	歯科診療補助で学習した基礎知識をもとに、歯科器材の取り扱い方、術者との共同動作、各分野における処置別歯科診療補助法を習得させる。学習した歯科診療補助技術の熟練度を確認し、重要項目について総合的に実習・講義を行う。
目的	これまでの知識を関連づけて、歯科診療補助論での基本知識をもとに歯科衛生士として必要な知識と技術を習得する。 卒業後、即戦力となって活躍できるための技能を身に付ける。
学習目標	・歯周治療、歯周外科の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・光重合型コンポジットレジン充填の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・根管充填の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・清潔・不潔の概念を理解し、困難抜歯やおもな小手術の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・小児歯科治療の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・麻酔抜髄・根管治療の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・義歯装着時のセッティングができる。 ・寒天とアルジネート印象材の特性を理解し、連合印象採得の準備と説明ができる。 ・相互で連合印象採得ができる。 ・暫間被覆冠の目的を理解し、準備と手順が説明できる ・暫間被覆冠を模型上で製作できる。 ・歯科器械のメンテナンスができる。 ・個々の患者にあった、適切な介助ができる。 ・就業にあたっての心構えをもてる。
成績評価方法	1. 筆記試験 2. 実技試験 3. 実習課題提出物 4. 講義への取組み、学習態度、出席状況 以上により総合評価を行い可否判定する。
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「小児歯科学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科矯正学 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科放射線学 第2版」（医歯薬出版） 適時資料配布
留意事項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1～5	セッティング実習 保存修復・コンボジットレジン
6～10	セッティング実習 保存修復・麻酔抜髄、感染根管
11、12	セッティング実習 保存修復・根管充填
13～15	セッティング実習 保存修復・メタルインレー、メタルクラウン、ブリッジ
16～19	相互実習 アルジネート片側印象 ワックスの取り扱い 咬合採得
20、21	歯科用材料の取り扱い セメント練和
22～27	相互実習 アルジネート全顎印象・石膏注入（スタディモデル作製）・咬合採得
28～35	マネキン実習 寒天印象材、アルジネート連合印象・アルジネート機械練和・レジン系仮封材
36、37	暫間被覆冠作製実習 右上1番 右上5番
38～41	歯科用材料の取り扱い リベース材・ティッシュコンディショナー・ゴム質印象材
42～45	歯科用器具の取り扱い 外科器具・縫合針・持針器・矯正器具

18. 臨地実習・臨床実習Ⅱ（実務教員による実習）

12単位(必修)

第2学年（540時間）

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 安藤 貴美 山田 早希 石王 歩 及川 佑季子 前田 萌 松神 美翔子
授業科目概要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護）を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学習目標	① 患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。 ② 患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話しができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。 ③ 受付応対事務ができる。 ④ 歯科予防処置ができる。 ⑤ 年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。 ⑥ 予診における歯科診療補助ができる。 ⑦ 歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。 ⑧ 歯周治療時の歯科診療補助ができる。 ⑨ 補綴治療時の歯科診療補助ができる。 ⑩ 口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑪ 矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑫ 小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑬ X線撮影の歯科診療補助ができる。 ⑭ 障害者歯科治療時の診療補助ができる。 ⑮ 訪問歯科治療時の診療補助ができる。 ⑯ 訪問歯科衛生指導ができる。 ⑰ 介護老人施設入所者に対して歯科口腔介護ができる。 ⑱ 公衆衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる。 ⑲ 歯科技工所の役割、業務が理解できる。
成績評価方法	1. 実習記録、レポート 2. 臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 3. 出席状況 以上により総合評価を行い合否判定する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 これまでに使用したすべての教科書、プリント
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。 臨地・臨床実習に必要なルールを遵守しない、身だしなみや礼儀作法が整わない場合は、担当教員の判断で中断する場合がある。

授業計画

回	内 容
1	幼稚園、保育園 実習
2	介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 実習
3	訪問歯科診療（往診） 実習
4	歯科技工所 見学実習
5	事務、受付 実習
6	消毒、滅菌業務 実習
7	麻酔下治療（全身麻酔、静脈内鎮静法 等） 見学実習
8	有床歯科病棟 実習
9	歯科診療補助 ＜歯科保存治療＞
10	歯科診療補助 ＜歯周治療＞
11	歯科診療補助 ＜歯科補綴治療＞
12	歯科診療補助 ＜口腔外科・歯科麻酔治療＞
13	歯科診療補助 ＜矯正歯科治療＞
14	歯科診療補助 ＜小児歯科治療＞
15	歯科診療補助 ＜X線撮影・現像・管理＞
16	歯科診療補助 ＜障害者歯科治療、高齢者歯科治療＞
17	歯科保健指導 ＜対象者別個別歯科保健指導＞
18	歯科予防処置 ＜予防の歯石除去、歯面研磨、フッ化物応用＞

19. 医療情報処理 (実務教員による講義)

2単位 (選択)

第2学年 (30時間)

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	基礎的な診療におけるカルテの内容を理解し、臨床の場でカルテ管理・患者管理などスムーズに対応できる知識と技術を習得する。
目 的	基礎的なカルテの内容を理解し、診療の流れと関連させることができる。
学 習 目 標	基礎的な診療の流れを理解できる 医療保険制度、診療報酬請求について理解できる 診療の流れとカルテ内容を関連づけて理解できる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	カルテの基礎知識 カルテ：画像診断
2	カルテ：歯周治療
3	カルテ：歯周治療
4	カルテ：光C R F
5	カルテ：光C R F
6	カルテ：インレー形成～装着
7	カルテ：インレー形成～装着
8	カルテ：麻酔抜髄～根管充填
9	カルテ：麻酔抜髄～根管充填
10	カルテ：感染根管処置～根管充填
11	カルテ：感染根管処置～根管充填
12	カルテ：支台築造～歯冠修復物
13	カルテ：支台築造～歯冠修復物
14	カルテ：B r 印象～装着
15	総合問題・まとめ

シラバス

2026年度 昼間部3年



学校法人 札幌青葉学園

✧ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	歯科予防処置実習Ⅲ	P4
2	歯科保健指導実習Ⅲ	P6
3	摂食機能訓練法	P8
4	口腔筋機能訓練法	P10
5	救急蘇生法	P12
6	チームケア	P14
7	歯科診療補助実習Ⅲ	P16
8	臨地実習・臨床実習Ⅲ	P18
9	症例検討	P20
10	医療保険事務	P21
11	総合学習Ⅰ	P23
12	総合学習Ⅱ	P24
13	総合学習Ⅲ	P25
14	総合学習Ⅳ	P26

教育課程 昼間部										
分野	教育内容	基準 単位数	開講 単位数	科目名称	単位数	学年別授業時間数			年間授業 時間数	備考
						1	2	3		
基礎 分野	科学的思考の基礎	10	12	生物学・組織発生学	2	30			30	
	生化学			2	30			30		
	教養基礎			1	15			15		
	栄養学			2	30			30		
	心理学			1	15			15		
	英語			1	15			15		
	情報処理			2	30			30		
	接遇作法			1	15			15		
小計	10	12		12	180	0	0	180		
専門 基礎 分野	人体の構造と機能	15	17	解剖学	2	30			30	
	生理学			2	30			30		
	口腔解剖学			2	30			30		
	歯牙解剖学			2	30			30		
	口腔組織発生学			1	15			15		
	口腔生理学			2	30			30		
	薬理学・口腔薬理学			2	30			30		
	微生物学・口腔微生物学			2	30			30		
	病理学・口腔病理学	2	30			30				
	歯・口腔の健康と予防に関わ る人間と社会の仕組み	7	8	衛生学・公衆衛生学	2	30			30	
	口腔衛生学・歯科衛生統計			4	60			60		
	衛生行政・社会福祉			2		30		30		
小計	22	25		25	345	30	0	375		
専門 分野	歯科衛生士概論	2	3	歯科衛生士概論	1	15			15	
				歯科医療倫理	1	15			15	
				歯科臨床概論	1	30			30	
	臨床歯科医学	8	17	歯科保存学Ⅰ	1	15			15	
				歯科保存学Ⅱ	1		15		15	
				歯科補綴学Ⅰ	1	15			15	
				歯科補綴学Ⅱ	1		15		15	
				歯周治療学Ⅰ	1	15			15	
				歯周治療学Ⅱ	1		15		15	
				口腔外科学Ⅰ	1	15			15	
				口腔外科学Ⅱ	1		15		15	
				矯正歯科学Ⅰ	1	15			15	
				矯正歯科学Ⅱ	1		15		15	
				小児歯科学Ⅰ	1	15			15	
				小児歯科学Ⅱ	1		15		15	
				障害者歯科Ⅰ	1	15			15	
				障害者歯科Ⅱ	1		15		15	
				高齢者歯科Ⅰ	1	15			15	
				高齢者歯科Ⅱ	1		15		15	
				歯科麻酔学・有病者歯科医療	1		15		15	
	歯科予防処置論	8	9	う蝕予防処置法	2	30			30	
				歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15	
				歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15	
				歯科予防処置実習Ⅰ	2	60			60	
				歯科予防処置実習Ⅱ	2		60		60	
				歯科予防処置実習Ⅲ	1			30	30	
	歯科保健指導論	7	9	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15	
				歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15	
				歯科保健指導実習Ⅰ	2	60			60	
				歯科保健指導実習Ⅱ	2		60		60	
				歯科保健指導実習Ⅲ	1			30	30	
				摂食機能訓練法	1			15	15	
	歯科診療補助論	9	12	口腔機能訓練法	1			15	15	
				歯科診療補助論Ⅰ	1	15			15	
				歯科診療補助論Ⅱ	1		15		15	
				歯科放射線学	1	15			15	
				臨床検査法	1		15		15	
				救急蘇生法	1			15	15	
				チームケア	1			15	15	
				歯科診療補助実習Ⅰ	2	60			60	
				歯科診療補助実習Ⅱ	3		90		90	
				歯科診療補助実習Ⅲ	1			30	30	
	臨地実習・臨床実習	20	25	臨地実習・臨床実習Ⅰ	1	45			45	
				臨地実習・臨床実習Ⅱ	12		540		540	
				臨地実習・臨床実習Ⅲ	12			540	540	
小計	54	75		75	495	945	690	2130		
選択 必修 分野	7単位以上を選択	7	11	医療情報処理	2		30		30	
				症例検討	1			15	15	
				医療保険事務	1			15	15	
				総合学習Ⅰ	1			15	15	
				総合学習Ⅱ	2			30	30	
				総合学習Ⅲ	2			30	30	
				総合学習Ⅳ	2			30	30	
	小計	7	11		11	0	30	135	165	
合計	93	123		123	1020	1005	825	2850		
必修科目単位数(時間数)				112	1020	975	690	2685		
選択科目単位数(時間数)				11	0	30	135	165		
選択科目のうち卒業に必要な単位数(時間数)				7	0	105		105		
※必要に応じて「特別講義」を実施する。										
単位について		講義：1単位15-30時間		基礎実習：1単位30時間		臨床・臨地実習：1単位45時間				

授 業 実 施 計 画 表(昼間部)

科目	区分	授業形式	学則等規定		第3学年												
学則で定める科目名称			単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
歯科予防処置実習Ⅲ	必修	実習	1	30													
歯科保健指導実習Ⅲ	必修	実習	1	30													
摂食機能訓練法	必修	講義	1	15													
口腔筋機能訓練法	必修	講義	1	15													
救急蘇生法	必修	講義	1	15													
歯科診療補助実習Ⅲ	必修	実習	1	30													
チームケア	必修	講義	1	15													
臨地実習・臨床実習Ⅲ	必修	実習	12	540													
症例検討	選択	講義	1	15													
医療保険事務	選択	講義	1	15													
総合学習Ⅰ	選択	講義	1	15													
総合学習Ⅱ	選択	講義	2	30													
総合学習Ⅲ	選択	講義	2	30													
総合学習Ⅳ	選択	講義	2	30													
			28	825													

1. 歯科予防処置実習Ⅲ (実務教員による講義・実習)

1 単位 (必修)

第 3 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	本科目では、これまでに学習した歯科予防処置の知識および技術を基礎として、歯科衛生士が行う歯科予防処置の実践的技術の習得を目的とした実習を行う。スケーラーのシャープニング実習として鎌型スケーラーおよびキュレットの研磨方法を学ぶとともに、相互実習を通して歯面清掃、歯周検査、歯面研磨、スケーリングなどの歯科予防処置の基本操作を確認する。また、ルーペの使用法について理解を深め、臨床における視野の確保や操作精度の向上を図る。さらに、国家試験前に歯科予防処置に関する内容の総復習を行い、知識と技術の整理および定着を図る。
目 的	歯科予防処置に関する知識および技術を統合し、相互実習を通して歯科予防処置の基本技術の精度向上を図るとともに、口腔内の状況に応じた適切な器具の選択および操作を理解する。さらに、歯周検査や歯面清掃、スケーリング、歯面研磨などの処置を安全かつ適切に実施できる実践力を高め、臨床において歯科衛生士として求められる歯科予防処置を総合的に応用できる能力を養う。
学 習 目 標	【一般目標】 歯科予防処置に関するこれまでの学習内容を基礎として基本的技術を統合的に活用し、シャープニングや歯面清掃、歯周検査、歯面研磨などの実習を通して臨床に必要な技術の定着を図る。 【到達目標】 1. 鎌型スケーラーおよびキュレットのシャープニングの目的を理解し、刃部の状態を評価したうえで適切にシャープニングを実施できる。 2. 歯面清掃器の特徴を理解し、口腔内の状況に応じて適切に歯面清掃を実施できる。 3. 歯周検査の目的を理解し、正確な測定および記録を実施できる。 4. 歯牙の形態的特徴を理解し、安全かつ適切なポジショニングと操作法でスケーリングを実施できる。 5. 歯面研磨の目的および適応を理解し、適切な器具・材料を選択して歯面研磨を実施できる。 6. ルーペの使用法を理解し、適切な姿勢および視野を確保して歯科予防処置に活用できる。 7. 歯科予防処置に関する知識および技術を統合し、国家試験対策として総合的に理解できる。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第 2 版 (医歯薬出版) プリント配布
留 意 事 項	注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す

授業計画

回	内 容
1	相互実習 歯周組織検査
2	相互実習 鎌型スケーラー
3	相互実習 パワースケーラー
4	相互実習 歯面研磨・口腔内洗浄
5	シャープニング シャープニング器械器具、方法、手用研磨、ポイント式研磨
6	相互実習 歯面清掃器（エアポリッシャー）
7	総括・復習

2. 歯科保健指導実習Ⅲ (実務教員による講義・実習)

1 単位 (必修)

第 3 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	石王 歩 益田 友美
授 業 科 目 概 要	歯科保健指導論で学んだ内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた歯科口腔管理ができる指導能力を習得させる。
目 的	対象別、症例別歯科保健指導ができるようになる。 症例の中の具体的問題点を抽出して、その問題解決に適する技法を具体的に検討できるようになる。
学 習 目 標	①専門的・基礎的知識を整理し、症例分析に役立てることができる ②歯科衛生教育活動における歯科衛生士の役割を説明できる ③保育所、幼稚園に入所する乳幼児を対象とした歯科衛生教育ができる ④指導に必要とされる媒体など作成し歯科保健指導ができる ⑤患者や相談者の訴えを正確にとらえることができる ⑥全身状態や口腔の状態の特徴をつかむことができる ⑦歯ブラシや各清掃用具の選択と使用法の指導ができる
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満したのものについて筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，実技試験，課題レポート，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第 2 版 (医歯薬出版) プリント配布
留 意 事 項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1 ～ 1 0	地域歯科保健活動 ・ 学習指導案作成
1 1 ～ 1 3	相互実習 ・ 菌垢染色 ・ ブラッシング指導
1 4 ・ 1 5	総括・復習

3. 摂食機能訓練法

1 単位（必修）

第 3 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	戸 倉 聡
授 業 科 目 概 要	超高齢社会の中で脳梗塞などの後遺症のため摂食機能低下がある患者が非常に多いこと、それらの人は形態的に義歯などを直した上で、摂食嚥下機能訓練をすることで誤嚥性肺炎を防ぐことが出来ることを理解させる。同様に障害者にも摂食機能訓練が必要な患者が多いことを理解させる。
目 的	摂食機能療法を理解し、食事を与えるときに歯科医師の指示のもとで簡単な指導が出来るようにする。
学 習 目 標	1. 摂食・嚥下障害者の方法が説明できる。 2. 摂食・嚥下のメカニズムが説明できる。 3. 摂食・嚥下の機能障害について説明できる。 4. 摂食・嚥下障害の評価ができる。 5. 要介護高齢者の摂食能力と摂食状況・機能障害状況について説明できる。 6. 摂食・嚥下と温度並びに味覚情報について説明できる。 7. 食物の物性は味わいにどう影響するのかが説明できる。 8. 在宅における摂食・嚥下障害への対応について説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第 3 版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	摂食・嚥下機能の基礎知識（１） 摂食・嚥下障害とは 摂食・嚥下にかかわる解剖学的知識 摂食・嚥下機能の基礎知識（２） 摂食・嚥下機能のメカニズム
2	摂食・嚥下機能の検査
3	摂食・嚥下機能の診断・評価
4	摂食・嚥下リハビリテーションの基礎知識
5	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（１） 摂食・嚥下訓練の基礎知識
6	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（２） 摂食・嚥下訓練の方法 間接訓練（基礎訓練）
7	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（３） 摂食・嚥下訓練の方法 直接訓練（摂食訓練）
8	発達障害児における摂食・嚥下リハビリテーション

4. 口腔筋機能訓練法

1 単位 (必修)

第 3 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	夏原 弥生
授 業 科 目 概 要	歯並びの悪い人、発音の悪い人、口元の美しくない人は、唇、頬や舌などの口腔に係わる筋肉のバランスがとれていない人であることを理解させる。また、その原因の多くは、遺伝的なものではなく後天的なものであることを理解させる。さらに、後天的要因の多くは、食育と密接に関わっていることを学ぶ。
目 的	悪習癖と正常な状態について理解し、悪習癖を取り除くことによって、それに起因する歯列不正を改善するよう指導ができるようになる。
学 習 目 標	正しい舌の位置、使い方、口唇筋の訓練法を学び正しい発音について理解し、自分でもできるようにする。また、食育の大切さを人に伝えられるようにする。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，小テスト，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第 2 版 (医歯薬出版) 舌のトレーニング (わかば出版) プリント スプレーボトル (容量が 400ml 程度のもの)、タコ糸、手鏡 (顔全体が映るくらい大きさ)、ストロー りっぷるとれーなー、木製のヘラ 3 本 (アイスクャンディーの棒で可)
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	舌のトレーニング レッスン1 リップエクササイズ 口腔筋機能療法の定義、歴史 正常な舌の位置と正常嚥下、異常な舌の位置と異常嚥下
2	舌のトレーニング レッスン2 リップエクササイズ 舌癖になる原因
3	舌のトレーニング レッスン3 リップエクササイズ 口呼吸と舌の位置関係
4	舌のトレーニング レッスン4 リップエクササイズ 表情筋の種類、発音練習
5	舌のトレーニング レッスン5 リップエクササイズ 食べ物を咀嚼する時の注意点
6	舌のトレーニング レッスン6 リップエクササイズ TCH コントロール
7	舌のトレーニング レッスン7 リップエクササイズ いびきと無呼吸症候群
8	舌のトレーニング レッスン8 リップエクササイズ MFT の応用

5. 救急蘇生法

1 単位（必修）

第 3 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	照井 章文
授 業 科 目 概 要	心肺停止など歯科治療中に遭遇する可能性のあるさまざまな偶発症に関する知識と予防法、対処法に関する科目
目 的	医療人として必要な救急蘇生法の知識を身につけ、歯科診療内外問わず起こりうる事態に対して予防あるいは適切に対応できる。
学 習 目 標	全身状態を把握する手技を習得し、各種モニター方法について理解し、施行できる
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，小テスト，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	救急蘇生法実習モデル 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第 2 版（医歯薬出版） プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科治療時に起こる各種全身の偶発症の原因と症状 歯科治療の侵襲性と偶発症 血管迷走神経性反射、過換気症候群 アナフィラキシーショック、局所麻酔薬中毒、誤嚥
2	歯科治療時における全身の評価とバイタルサイン（1） 術前評価法と歯科衛生士の役割 バイタルサインと測定法
3	歯科治療時における全身の評価とバイタルサイン（2） 心肺機能の把握、心電図
4	器械的モニタリング 自動血圧計・経皮的酸素飽和度測定計
5	全身的疾患を有する歯科患者について 歯科で遭遇しやすい疾患と対処（虚血性心疾患、脳血管障害、糖尿病、気管支喘息）
6	救急措置 歯科治療時における歯科衛生士の役割 酸素吸入、救急薬品、BLS
7	実習（1） モニタリング
8	実習（2） B L S

6. チームケア

1 単位 (必修)

第 3 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	杉田 久子 源間 隆雄
授 業 科 目 概 要	看護学の歴史的発展から専門職としての看護職の役割と機能を理解し、看護学の基本概念を基盤とした看護実践のあり方を学ぶ。 患者・利用者中心の支援活動をチームで行うために、臨床現場で実際に行われている具体的な事例を聞き、他職種の特徴や多様性について理解する。 多職種連携が必要とされている背景を知り、理解を深める。多職種が協働する場における歯科衛生士に期待される役割を考える。
目 的	安全で安楽な看護実践を体現するための看護技術の基本を講義と演習を通じて学習する。 人々の健康生活をめざす看護実践のあり方と歯科衛生士の役割・機能を比較し、その共通性を考察する。 それぞれの職業における専門分野の特徴と多様性を理解する。 患者・利用者を中心とした多職種連携医療の意義と方法を理解する。 意欲・関心を高め、多職種との連携に役立てることができる。
学 習 目 標	<一般目標> 対象者の健康状態を捉える方法の基本的事項を理解する。 安全・安楽の保持と生活援助に関わる基本的な看護技術を学ぶことから看護学の基本概念を理解する。 専門的援助関係の形成や看護技術の特性を踏まえ歯科衛生士の実践にどのように活かすか検討する。 多職種連携において歯科衛生士が求められる役割について理解できる <到達目標> 1. 看護学の基本概念（人間、健康、環境、看護）および看護実践の定義と構造を説明できる。 2. 対象者の全身状態を理解するための観察技術の重要性を説明できる。 3. バイタルサイン測定の方法を理解し正しく測定できる。 4. 専門的援助関係を支えるコミュニケーションの重要性について説明できる。 5. 医療・看護実践場面において安全を脅かす因子について考えることができる。 6. 安全に車椅子の移乗・移送ができる。 7. 食べることの意義と食事支援の方法について説明できる。 8. セルフケアレベルに応じた身だしなみと清潔の保持のための援助方法について説明できる。 9. チームケアの重要性と歯科衛生士の役割について説明できる。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 70% ミニレポート 30% 受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	資料配布
留 意 事 項	授業で配布される資料はファイルにまとめ復習をし、いつでも活用できるように携帯する。 講義回の終了時に「ミニレポート」を実施する。

<授業計画>

回	内 容
1	看護の概念と看護実践の構造： 看護の歴史、看護の定義と目標、看護師の役割・機能、看護の倫理と基本的責務
2	対人関係を築く方法①： 専門的援助関係を支える対人コミュニケーション
3	日常生活を支援する方法①： 看護における安全管理、安楽な体位の工夫、移動・移送の援助方法
4	日常生活を支援する方法②：【演習】 車椅子移乗と移送の実践演習
5	日常生活を支援する方法③： 食事の援助 食べることの意義、摂食・嚥下機能に沿った食事介助、口腔ケアの重要性
6	日常生活を支援する方法④： 清潔の援助 清潔・身だしなみに対するアプローチ、部分浴、着替え
7	言語聴覚士の役割について
8	チームケアの重要性について

7. 歯科診療補助実習Ⅲ (実務教員による講義・実習)

1 単位 (必修)

第 3 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	益田 友美
授 業 科 目 概 要	歯科診療補助で学習した基礎知識をもとに、歯科器材の取り扱い方、術者との共同動作、各分野における処置別歯科診療補助法を習得させる。学習した歯科診療補助技術の熟練度を確認し、重要項目について総合的に実習・講義を行う。
目 的	これまでの知識を関連づけて、歯科診療補助論での基本知識をもとに歯科衛生士として必要な知識と技術を習得する。 卒業後、即戦力となって活躍できるための技能を身に付ける。
学 習 目 標	・ 歯周治療、歯周外科の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・ 光重合型コンポジットレジン充填の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・ 根管充填の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・ 清潔・不潔の概念を理解し、困難拔牙やおもな小手術の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・ 小児歯科治療の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・ 麻酔抜髄・根管治療の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・ 義歯装着時のセッティングができる。 ・ 寒天とアルジネート印象材の特性を理解し、連合印象採得の準備と説明ができる。 ・ 相互で連合印象採得ができる。 ・ 暫間被覆冠の目的を理解し、準備と手順が説明できる ・ 暫間被覆冠を模型上で製作できる。 ・ 補綴物製作の流れを理解し、説明できる。 ・ 歯科器械のメンテナンスができる。 ・ 個々の患者にあった、適切な介助ができる。 ・ 就業にあたっての心構えをもてる。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「小児歯科学」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科矯正学 第2版」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科放射線学 第2版」 (医歯薬出版) 適時資料配布
留 意 事 項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1、2	マネキン実習 寒天印象材、アルジネート連合印象
3、	マネキン実習 義歯印象
4、5	暫間被覆冠作製実習 右上3番既製冠 右上5番
6	歯科用材料の取り扱い 歯肉圧排
7、8	相互実習 歯肉圧排・寒天アルジネート連合印象・咬合採得
9、10	相互実習 アルジネート全顎印象・石膏注入（スタディモデル作製）
11～14	暫間被覆冠作製実習 右上5番 右上7番
15	暫間被覆冠作製実習 ⑦6⑤ Br

8. 臨地実習・臨床実習Ⅲ (実務教員による実習)

12単位(必修)

第3学年 (540時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 安藤 貴美 山田 早希 石王 歩 及川 佑季子 前田 萌 松神 美翔子
授業科目概要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護）を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学習目標	① 患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。 ② 患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話しができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。 ③ 受付応対事務ができる。 ④ 歯科予防処置ができる。 ⑤ 年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。 ⑥ 予診における歯科診療補助ができる。 ⑦ 歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。 ⑧ 歯周治療時の歯科診療補助ができる。 ⑨ 補綴治療時の歯科診療補助ができる。 ⑩ 口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑪ 矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑫ 小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑬ X線撮影の歯科診療補助ができる。 ⑭ 障害者歯科治療時の診療補助ができる。 ⑮ 訪問歯科治療時の診療補助ができる。 ⑯ 訪問歯科衛生指導ができる。 ⑰ 介護老人施設入所者に対して歯科口腔介護ができる。 ⑱ 公衆衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる。 ⑲ 歯科技工所の役割、業務が理解できる。
成績評価方法	1. 実習記録、レポート 2. 臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 3. 出席状況 以上により総合評価を行い合否判定する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 これまでに使用したすべての教科書、プリント
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。 臨地・臨床実習に必要なルールを遵守しない、身だしなみや礼儀作法が整わない場合は、担当教員の判断で中断する場合がある。

授業計画

回	内 容
1	幼稚園、保育園 実習
2	介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 実習
3	訪問歯科診療（往診） 実習
4	歯科技工所 見学実習
5	事務、受付 実習
6	消毒、滅菌業務 実習
7	麻酔下治療（全身麻酔、静脈内鎮静法 等） 見学実習
8	有床歯科病棟 実習
9	歯科診療補助 ＜歯科保存治療＞
10	歯科診療補助 ＜歯周治療＞
11	歯科診療補助 ＜歯科補綴治療＞
12	歯科診療補助 ＜口腔外科・歯科麻酔治療＞
13	歯科診療補助 ＜矯正歯科治療＞
14	歯科診療補助 ＜小児歯科治療＞
15	歯科診療補助 ＜X線撮影・現像・管理＞
16	歯科診療補助 ＜障害者歯科治療、高齢者歯科治療＞
17	歯科保健指導 ＜対象者別個別歯科保健指導＞
18	歯科予防処置 ＜予防の歯石除去、歯面研磨、フッ化物応用＞

9. 症例検討

1 単位（選択）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	山田 早希 益田 友美
授 業 科 目 概 要	学生は各自でテーマを考え、それについて症例論文の作成を行う。 歯科衛生士としてのアプローチの方法を自ら考えて発表し、それに対してクラス全員でディスカッションし、意見を出し合う。
目 的	3年間で学んだ多くの断片的な歯科医学知識を立体的に組み立て、実際に臨床で有効に活用できるように、知識と技術の統合を目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 症例論文の作成を通して、歯科衛生士として必要となる思考力を養う。 【到達目標】 ①テーマを考えて論文の構成や計画をたてることができる。 ②計画に基づいて論文を遂行することができる。 ③結果を考察してまとめることができる。
成 績 評 価 方 法	各課題における意見交換の仕方、発表の内容、発表態度、正しい日本語の表現、発音を評価する。
教 材	特に特定の教材を用いず。
留 意 事 項	講義の進行に合わせて、適宜コンピュータを利用したデータ処理実習を行う。

10. 医療保険事務

1 単位（選択）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	益田 友美
授 業 科 目 概 要	社会保障制度における医療保険の仕組みを理解し、医療事務も含め歯科衛生士が身につける実務の基本を理解する。
目 的	医療保険の仕組みを学び、歯科衛生士として必要な保健事務の知識を習得する。
学 習 目 標	社会保険の仕組み * 社会保障における医療保険制度を説明できる。 * 医療保険制度における保健種別が説明できる。 * 診療報酬請求事務の流れが説明できる。 保険医療の実務 * 医療保険制度の仕組みを説明できる。 * 保険医療費の請求支払いの手順を説明できる。 * 介護保険とのかかわりについて説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度（医歯薬出版） 適時資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	社会保険の仕組み 社会保障制度とは 社会保険の種類 社会保険行政の組織
2	医療保険の種類と法律 健康保険 船員保険 共済組合保険
3	医療保険の種類と法律 国民健康保険 後期高齢者医療度
4	医療保険給付について 医療給付 現金給付
5	保険医療の実務 医療保険制度 保険者・被保険者・医療保険
6	保険医療の実務 診療報酬の請求と支払い
7	保険医療の実務 保険医療の対象 保険診療の方針
8	保険診療の実際 保険診療録 介護保険とのかかわり 口腔関連サービス まとめ

11. 総合学習Ⅰ（実務教員による講義）

1単位（選択）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 飯塚 正 中村 麻希 益田 友美 安藤 貴美 山田 早希 石王 歩 及川 佑季子 前田 萌 松神 美翔子
授 業 科 目 概 要	基礎分野、専門基礎分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、知識の統合を図る。
目 的	基礎分野、専門基礎分野の知識をまとめ、総合的に捉えることで、科学的・論理的思考能力を育成する。
学 習 目 標	生命科学等の理解を深め、人体ならびに歯・口腔の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康・疾病について、その予防法と回復過程に関する知識をまとめ、観察力、判断力を培う。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	基礎分野、専門基礎分野で使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～8	教員のもとで、各自がまとめを行う。

12. 総合学習Ⅱ（実務教員による講義）

2単位（選択）

第3学年（30時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 飯塚 正 中村 麻希 益田 友美 安藤 貴美 山田 早希 石王 歩 及川 佑季子 前田 萌 松神 美翔子
授 業 科 目 概 要	専門分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、論理、技術の統合を図る。
目 的	専門分野の知識をまとめ、総合的に捉え、臨床の場面に適応できる能力を育成する。
学 習 目 標	歯科医療を科学的、論理的に理解し、論理と実践を結びつけて理解できる能力を培う。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	専門分野で使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～15	教員のもとで、各自がまとめを行う。

13. 総合学習Ⅲ (実務教員による講義)

2単位 (選択)

第3学年 (30時間)

担 当 教 員 名	吉田 重光 飯塚 正 中村 麻希 益田 友美 安藤 貴美 山田 早希 石王 歩 及川 佑季子 前田 萌 松神 美翔子
授 業 科 目 概 要	理論的思考力を養うため、これまでに学んだ中から学生が各自で研究テーマを考え、それについての理解を深める。
目 的	知識をまとめる力を身につける。
学 習 目 標	自分で知識の整理、まとめを行い、歯科衛生士として将来必要となる科学的思考力を養う。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～15	教員のもとで、各自がまとめを行う。

14. 総合学習Ⅳ（実務教員による講義）

2単位（選択）

第3学年（30時間）

担当教員名	吉田 重光 飯塚 正 中村 麻希 益田 友美 安藤 貴美 山田 早希 石王 歩 及川 佑季子 前田 萌 松神 美翔子
授業科目概要	3年間で学んだことを集約する。多くの断片的歯科医学知識を立体的に組み立て、実際に臨床で有効に使えるようにする。
目的	知識と技術の統合を目的とする。
学習目標	歯科衛生士業務の範囲内では自分の判断、自分の考えが求められる。そのためにみんなで議論をし自分の考えを述べる訓練をし、それが出来るようになる
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留意事項	

授業計画

回	内 容
1～15	3年間で学んだ知識・技術の集大成を行う。